

別府大学短期大学部

平成30年度 授業評価報告書

別府大学短期大学部

別府大学短期大学部 平成 30 年度授業評価報告書の刊行にあたって

別府大学短期大学部 学長 仲嶺 まり子

別府大学短期大学部では、短期大学基準協会の評価制度が始まって以来、毎年 FD 委員会を中心となって「自己点検・評価報告書」を刊行してきた。平成 26 年度に IR 委員会を設置したことにより、平成 27 年度から別府大学と共同で「自己点検・評価報告書」を刊行することとなった。これに伴い、短期大学部では「学生の授業評価アンケート」のデータ及び授業改善点について「授業評価報告書」として刊行することとなった。

単独事業としての報告書刊行と、評価の高かった授業担当者による FD 研修会を実施する等により、授業手法や改善策の共有、授業改善への意欲向上が図られ、ここ数年「授業評価」は全体的に高得点で推移している。

短期大学部の「学生による授業評価アンケート」は、平成 29 年度後期から Web 利用のアンケートシステムを導入し、平成 30 年度においても前後期末の年 2 回、原則として全科目対象の Web アンケートを実施した。

評価結果は、前後期ともに全体平均 4.45 の高得点であった。各教員の個別の評価は上昇傾向にあり、それぞれが学生の意見を踏まえながら授業改善に取り組んでいることが分かる。しかし、1 週間の学修時間を見てみると、平均は 2.63 時間であるが、約 70%~80% の学生が 1 時間以内（25%~35%が 15 分以内を含む）という割合である。また、評価が平均以上であっても時間外の学修時間が短い場合、評価が平均以下であっても時間外学修時間が長い場合が散見され、時間外学修の充実については、予習復習課題等のさらなる改善が必要と考えられる。また、自由記述では、「分かりやすい」「楽しい」という記述が多く見られるが、学修時間が確保されていないことを踏まえると、記述のすべてが授業の充実度を表しているのではないことが推察される。

授業評価アンケートとは別に、「注意をしても、スマホをいじるのを止めない、友達との私語を止めない」など受講態度への困りや授業内容の調整の困難さに悩む教員の声を聞くことがある。授業評価アンケートが定着し、授業改善に不断の努力が続けられる中、このような教員の悩みや思い、創意工夫を授業に反映させていくためには、教員間の授業手法等の情報共有及び連携のさらなる強化を図ることが重要と思われる。

目次

巻頭言	別府大学短期大学部学長 仲嶺まり子	1
1. 授業評価アンケート実施要領		3
2. 「私の授業改善プラン」作成手順及び書式		7
3. 平成30年度前期・後期 対象学科別平均点一覧		9
4. 平成30年度前期・後期 学科別評価、学科長見解及び「私の授業改善プラン」		
食物栄養科		11
初等教育科		22

1. 授業評価アンケート実施要領

平成30年度 学生による授業評価アンケート実施要領

別府大学短期大学部
FD委員会

1. 対象とする授業科目

- 全授業科目を対象とする。

2. 実施時期

- 前期授業評価実施期間：平成30年7月9日（月）～7月31日（火）
- 後期授業評価実施期間：平成31年1月5日（土）～1月23日（水）

3. 実施方法

- 「web アンケート実施手順」参照

4. アンケート項目

- (1) 質問項目は、「1. あなたの受講態度について」を3項目、「2. 授業内容について」を12項目とする。
- (2) 自由記述は「この授業で良いと思う点」、「この授業の改善点」の2項目とする。

5. 集計

- (1) 集計は外部委託とする。
- (2) それぞれの科目において集計し、各質問に対する平均値、選択肢ごとの回答の実数及び回答率を算出する。質問1-②、1-③に限り、回答者数の実数のみを算出する。
- (3) 上記(2)と同様の集計を学科別及び学校全体で算出する。

6. アンケート結果の活用

- (1) 委員会は、各教員に本人の評価（質問項目別の数値、自由記述）と学校全体の平均値を比較した結果を通知する。
- (2) 各教員は評価結果に基づき「授業改善プラン」を作成しFD委員会に提出する。
- (3) 各科のFD委員は、所属する教員の評価結果と授業改善プランを集約して学科長に提出する。
- (4) 学科長は、所属する教員の評価結果と授業改善プランを確認し、評価が極端に低い教員に対して助言を行う。

Web アンケート実施手順

学生の回答の手間と、教員の説明の手間を最小限にするため、各科目では次のような手順で回答を回収します。

1. 「科目番号」と「パスワード」の確認

各科目には、科目コードとは異なるアンケート専用の「科目番号」と、回答を始めるのに必要な「パスワード」を付与しています。まずはアンケートを実施する科目の「科目番号」と「パスワード」をご確認下さい。

① 「科目番号」について

学生は「科目番号」を使って、回答すべき科目の回答用ページを特定します。

② 「パスワード」について

各科目のアンケートに回答し始める際に、このパスワードを入力しなければ、回答ページが表示できない、という仕組みになっています。コードは3桁のランダムな英数字です。

2. 「在学生ポータル」の「メッセージ受信一覧」の「お知らせ」に掲載しているアンケートページへのリンクか下記 QR コード、または URL の手入力で「科目一覧ページ」を開かせる

各科目用の回答ページを集めた科目一覧ページが用意されており、これを学生に開かせます。下記の QR コードを読み取らせるか、アドレスを入力させてください。また在学生ポータルにも、このページへのリンクを掲載しています。

正しく開けると、下右側の画面が表示されます。



<http://creates.sub.jp/bu-survey/junior/201801/>

別府大学短期大学部 学生による授業評価アンケート 2018年度 前期	
科目番号から探す	学科から探す
<input type="text" value="科目番号を入力"/> <input type="button" value="検索"/>	<input type="button" value="初等教育科 (No.1~111・178)"/> <input type="button" value="専攻科初等教育 (No.112~126)"/> <input type="button" value="専攻科福祉 (No.127~132)"/> <input type="button" value="食物栄養科 (No.133~177)"/>

半角の数字を入力してください。

3. 「科目番号から探す」に「科目番号」を入力、または「学科から探す」から対象科目を選択する

回答したい科目は、2通りの方法で見つけることができます。

「科目番号から探す」では、直接「科目番号」を入力して、該当科目を探することができます。

「学科から探す」では、学科別に各科目の回答ページ集めた一覧から、該当の科目を探します。

いずれの方法でも、各科目が右図のように表示されます。

科目番号から探す

3 検索

科目番号 3

科目コード 6245A

保健体育 A (実技を含む)

教員 中山正剛
開講時間 月曜日 4時限目
受講者数 45
開講学科 初等教育科

回答開始

開講時間や受講者数などで間違いがないか確認した上で、「回答開始」ボタンを押します。すると、右図のような「パスコード」入力画面が表示されます。

正しいパスコードを入力して「OK」を押すと、アンケートページが表示されます。

この科目のパスコードを入力してください (英数3文字)

OK キャンセル

4. アンケートへの回答

アンケートの最初のページでは、「所属コース」「学年」「学籍番号」を入力してもらいます。

※「学籍番号」について

学籍番号の入力は、アンケートの誤回答や重複回答を防ぐためです。決して個人の特定等には使用しない旨を、学生に連絡してください。

各設問はほとんどがクリックだけで回答できます。設問は数ページありますが、各ページに回答が終わるたびに「次へ」で進みます。

最後の自由記述ページが終われば「完了」ボタンを押して、回答は終了です。

別府大学短期大学部 学生による授業評価アンケート
2017年度 後期

あなたの所属について

この調査は、よりよい授業を行うために学生の皆さんの意見を伺うものです。
無記名で実施させていただきますので、回答内容からお名前が判明することはありませんが、授業改善に役立つような責任ある回答をお願いします。

*1. 所属科コース

- 食物栄養科
- 初等教育科
- 保健科
- 養護科 (保健専攻)
- 専攻科 (初等教育専攻)

*2. 学年

- 1年
- 2年

*3. 学籍番号

学籍番号は、重複回答や誤回答の防止のために用いられます。
アンケートの回答から個人を特定することは一切行いませんので、正しく入力してください。

*4. 回答確認番号

回答確認番号は、対象科目にて教員から案内されます。

2. 「私の授業改善プラン」作成手順及び書式

2018（平成30）年度〇期 「私の授業改善プラン」作成の手順

1. 作成手順

- ① 前回の「授業改善プラン」に記述した内容のうち、今期の授業で実践したことを「今回の改善点」の欄に100字程度で記入する。
- ② 2018（平成30）年度〇期授業評価アンケート結果を受けて、先生方ご自身がどのように受け止めたかを、「評価結果の受け止め」と「自由記述の受け止め」に分けて、それぞれ100字程度で記入する。
- ③ 「評価結果の受け止め」、「自由記述の受け止め」の欄に記入したことを踏まえて、なぜそのような結果となったかの要因を先生方ご自身で分析して、「結果の要因」欄に100字程度で記入する。
- ④ 「結果の要因」欄に記入したことを踏まえて、来年度の授業をどのように改善するのか、「授業改善プラン」欄に具体的な方策について200字程度で記入する。

2. 提出締切

〇年〇月〇日（〇）まで ※メールで各科のFD委員に提出

3. 留意事項

- 記入にあたっては、他の教員と、今回の結果を交換するなどして、意見交流を行うとより効果的な「私の授業改善プラン」を作成できると思います。
- 「今回の改善点」→「評価結果の受け止め」、「自由記述の受け止め」→「結果の要因」→「授業改善プラン」と相互の関連性が分かるように記入することが大切だと思います。

4. 記入例

今回の改善点（100字程度）

今期からは模擬授業を実践させ、事前の準備から指導案の作成、結果の振り返りまで、学生が主体的に取り組むことが出来る内容に変更した。また、これらの学生が作成した資料について、受講生がmoodle上で共有できるようにした。

評価結果の受け止め（100字程度）

評価の得点は概ね良好であり、常に意識している2-8から2-12の項目については、今回も良い評価をもらえたようだ。しかし、2-6の評価が悪くなっている。

自由記述の受け止め（100字程度）

自由記述欄では、説明の詳しさや対応の丁寧さにおいて高評価を受けているようだ。しかし、伝える際の声の大きさについては聞き取りにくいという評価だった。また、前回からの改善点である模擬授業の方法などが好評であった。



結果の要因（100字程度）

2-6と自由記述については、学生がディスカッションをしている最中に指示などをしたことが要因と考えられる。2-8～2-12については、模擬授業の方法を変えるなどの改善している姿勢が学生に伝わったことが要因と考える。

授業改善プラン（200字程度）

学生への声がこれまで以上に届くように、学生がディスカッションをしている場合は、きちんと区切りをつけて次の指示を出すようにしたり、ディスカッションの前に先の流れを事前に説明したりするなど工夫したい。今回の結果に満足することなく、これまで以上に、「教える」というスタイルよりも「学生が自分で学ぶことができるような時間（アプローチ）」を増やしていこうと思う。

2018（平成30）年度〇期 私の授業改善プラン

氏名 _____

今回の改善点（100字程度）

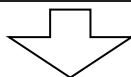
私は、今期の授業を行うにあたって、次のことを実践した！

評価結果の受け止め（100字程度）

私は、今回の授業改善アンケートの評価結果を見て、次のように受け止めた！

自由記述の受け止め（100字程度）

私は、今回の授業改善アンケートの自由記述を見て、次のように受け止めた！



結果の要因（100字程度）

私は、今回の授業改善アンケートの結果を、次の要因によるものとする！

授業改善プラン（200字程度）

だから、来年度の授業を、私は次のように改善する！

3. 平成30年度前期・後期 対象学科別平均点一覧

学生による授業評価アンケート 平成30年度前期 対象学科別平均点一覧

学科	科目数	回答枚数	学生の自己評価 [Q1]				授業の評価 [Q2]											
			1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
食物栄養科	18	963	4.70	4.29	4.38	4.41	4.45	4.52	4.23	4.20	4.18	4.21	4.44	4.36	4.29	4.35	4.19	
初等教育科	48	4193	4.63	4.44	4.54	4.59	4.59	4.65	4.50	4.45	4.48	4.46	4.57	4.54	4.53	4.53	4.50	
全体	66	5156	4.64	4.41	4.51	4.55	4.56	4.63	4.45	4.40	4.43	4.42	4.55	4.51	4.48	4.49	4.44	

学生による授業評価アンケート 平成29年度前期 教員所属学科別平均点一覧

食物栄養科	18	591	4.70	4.36	4.41	4.36	4.42	4.57	4.21	4.21	4.17	4.21	4.39	4.34	4.27	4.31	4.23
初等教育科	48	1915	4.53	4.12	4.26	4.26	4.37	4.56	4.29	4.21	4.28	4.24	4.40	4.34	4.37	4.34	4.27
保育科	10	461	4.41	4.08	4.08	4.15	4.21	4.31	4.23	4.17	4.25	4.20	4.27	4.25	4.25	4.20	4.20
専攻科福祉専攻	2	55	4.54	4.57	4.49	4.32	4.49	4.49	4.54	4.46	4.49	4.54	4.43	4.51	4.54	4.43	4.51
専攻科初等教育専攻	2	54	4.39	4.63	4.60	4.54	4.44	4.63	4.60	4.51	4.59	4.53	4.71	4.54	4.57	4.49	4.51
全体	80	3076	4.55	4.18	4.29	4.27	4.37	4.54	4.28	4.22	4.27	4.24	4.39	4.34	4.35	4.32	4.26

学生による授業評価アンケート 平成30年度後期 対象学科別平均点一覧

学科	科目数	回答枚数	学生の自己評価 [Q1]				授業の評価 [Q2]											
			1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
食物栄養科	43	792	4.47	4.23	4.39	4.37	4.60	4.65	4.50	4.48	4.46	4.45	4.59	4.57	4.53	4.51	4.48	
初等教育科	138	4162	4.57	4.43	4.52	4.55	4.53	4.55	4.45	4.41	4.45	4.40	4.52	4.49	4.47	4.48	4.45	
全体	181	4954	4.56	4.39	4.50	4.52	4.54	4.57	4.46	4.42	4.45	4.40	4.53	4.50	4.48	4.48	4.45	

学生による授業評価アンケート 平成29年度後期 教員所属学科別平均点一覧

食物栄養科	40	728	4.63	—	4.53	4.48	4.47	4.54	4.30	4.31	4.27	4.24	4.45	4.38	4.35	4.36	4.31
初等教育科	94	3813	4.62	—	4.59	4.60	4.55	4.59	4.42	4.42	4.38	4.44	4.50	4.47	4.47	4.48	4.42
保育科	28	1130	4.47	—	4.41	4.45	4.45	4.48	4.41	4.39	4.36	4.43	4.48	4.45	4.46	4.41	4.43
専攻科福祉専攻	19	419	4.57	—	4.24	4.45	4.47	4.61	4.34	4.34	4.33	4.43	4.47	4.40	4.48	4.45	4.35
全体	6090	6090	4.59	—	4.52	4.55	4.52	4.57	4.40	4.40	4.36	4.41	4.49	4.45	4.45	4.45	4.40

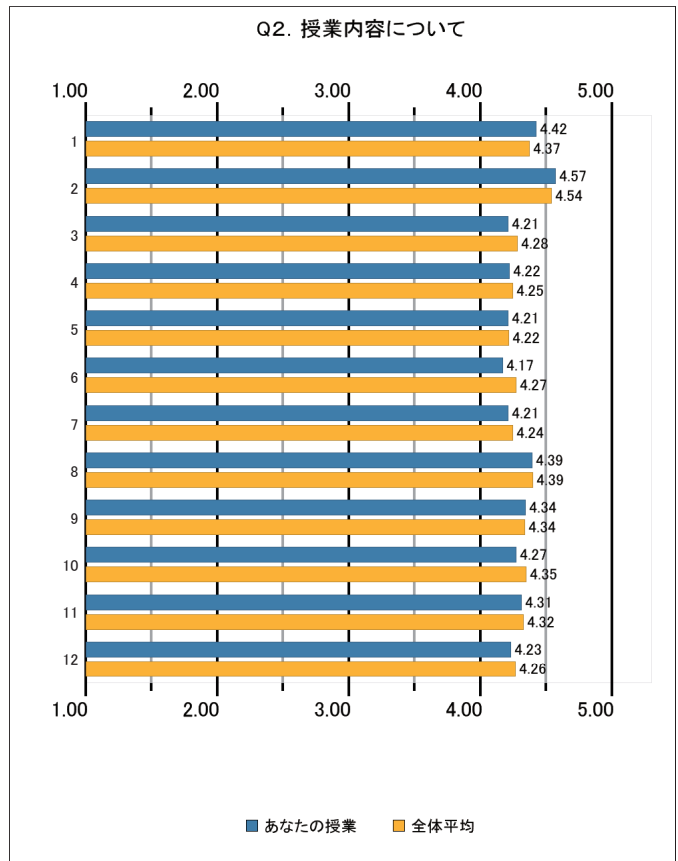
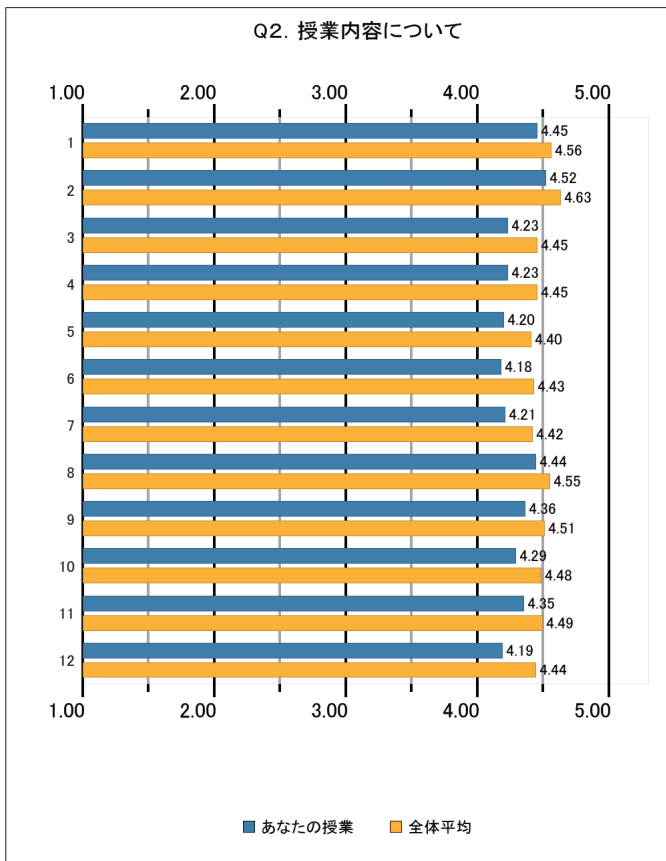
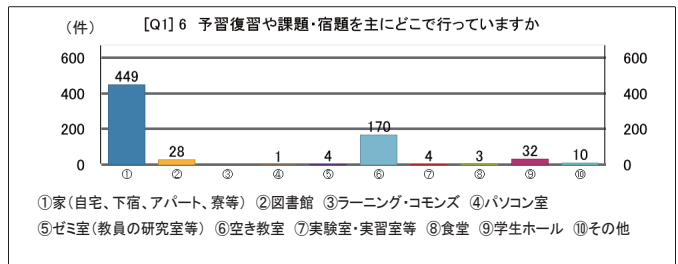
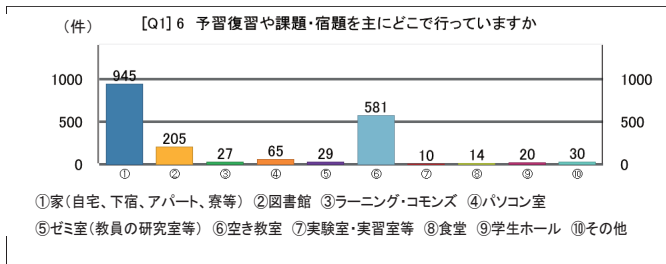
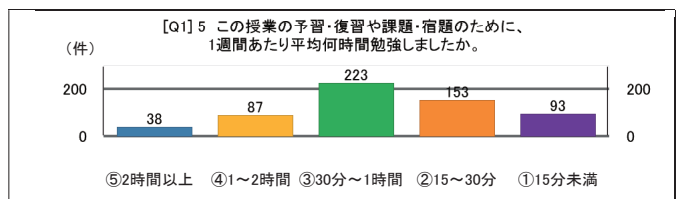
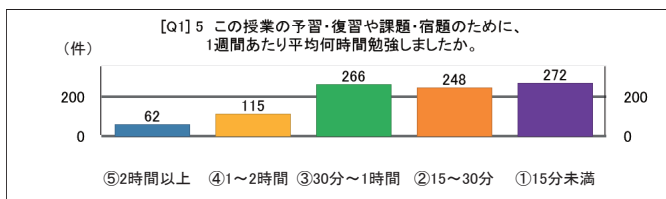
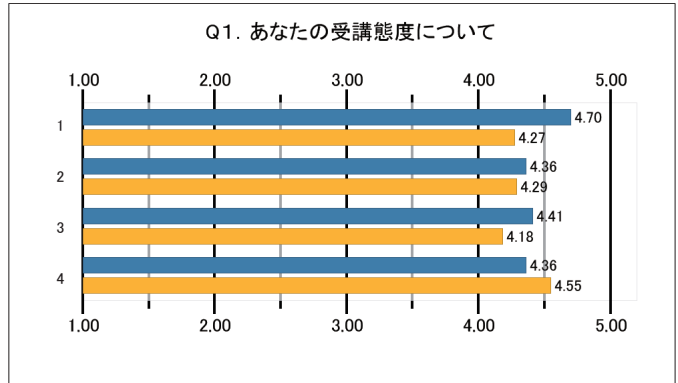
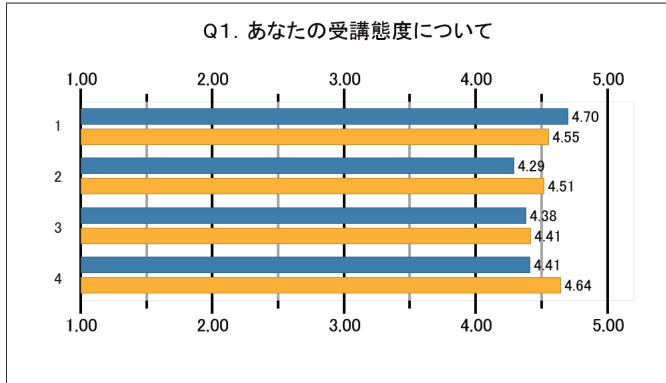
4. 平成30年度前期・後期 学科別評価、学科長見解及び「私の授業改善プラン」

- (1)食物栄養科
- (2)初等教育科

授業改善のためのアンケート 食物栄養科

平成 30 年度前期

平成 29 年度前期



平成 30 年度前期

上段:回答者数 / 下段:割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わ ない	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講 しましたか。	753 78.2%	147 15.3%	52 5.4%	10 1.0%	1 0.1%	4.70	4.64
[Q1] 2	授業中に私語、いねむりや携帯電話の使用等を せず教員の話をよく聴くように努めましたか。	481 49.9%	316 32.8%	134 13.9%	27 2.8%	5 0.5%	4.29	4.41
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いま すか。	541 56.2%	286 29.7%	106 11.0%	25 2.6%	5 0.5%	4.38	4.51
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に 取り組んだと思いませんか。	554 57.5%	280 29.1%	102 10.6%	24 2.5%	3 0.3%	4.41	4.55
[Q1] 5	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、 1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 62 6.4%	(1~2時間) 115 11.9%	(30分~1時間) 266 27.6%	(15~30分) 248 25.8%	(15分未満) 272 28.2%	2.43	2.34
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到 達目標は十分に説明されましたか。	582 60.4%	275 28.6%	75 7.8%	20 2.1%	10 1.0%	4.45	4.56
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	627 65.1%	238 24.7%	76 7.9%	15 1.6%	6 0.6%	4.52	4.63
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めて いましたか。	505 52.4%	263 27.3%	130 13.5%	39 4.0%	25 2.6%	4.23	4.45
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切 でわかりやすい授業でしたか。	510 53.0%	273 28.3%	105 10.9%	40 4.2%	34 3.5%	4.23	4.45
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的 でしたか。	498 51.7%	274 28.5%	111 11.5%	45 4.7%	34 3.5%	4.20	4.40
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった ですか。	494 51.3%	264 27.4%	119 12.4%	51 5.3%	34 3.5%	4.18	4.43
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮 がなされていたか。	493 51.2%	285 29.6%	109 11.3%	46 4.8%	29 3.0%	4.21	4.42
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられま したか。	573 59.5%	283 29.4%	75 7.8%	19 2.0%	12 1.2%	4.44	4.55
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていま したか。	548 56.9%	275 28.6%	98 10.2%	20 2.1%	21 2.2%	4.36	4.51
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていま したか。	541 56.2%	261 27.1%	89 9.2%	36 3.7%	35 3.6%	4.29	4.48
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が 達成できましたか。	520 54.0%	309 32.1%	94 9.8%	25 2.6%	14 1.5%	4.35	4.49
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでし たか。	498 51.7%	268 27.8%	120 12.5%	34 3.5%	42 4.4%	4.19	4.44

平成 29 年度前期

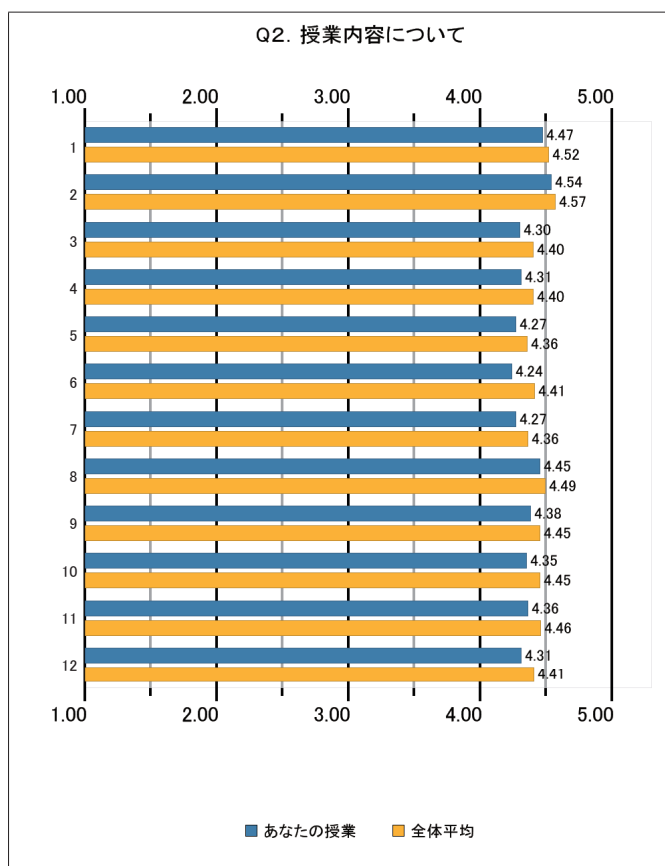
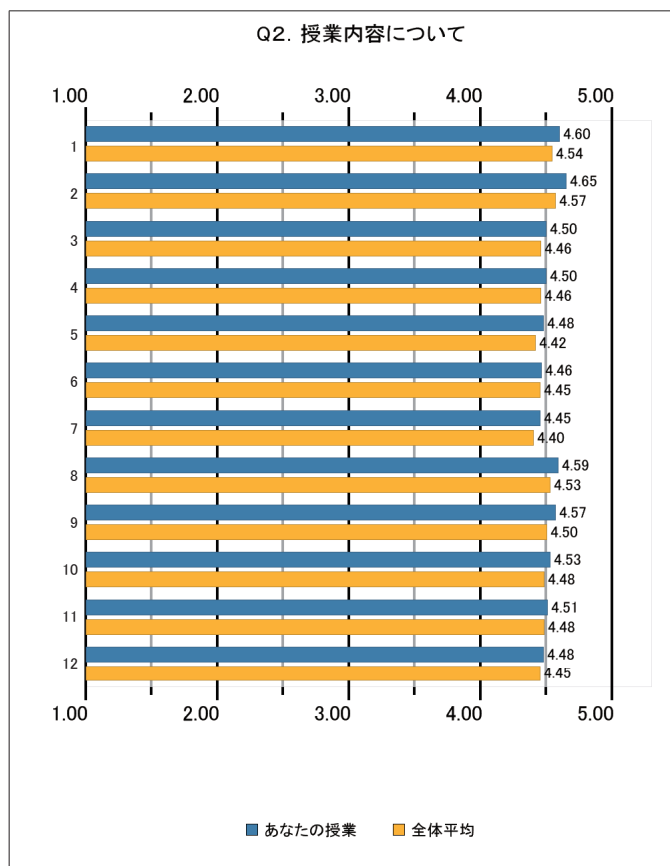
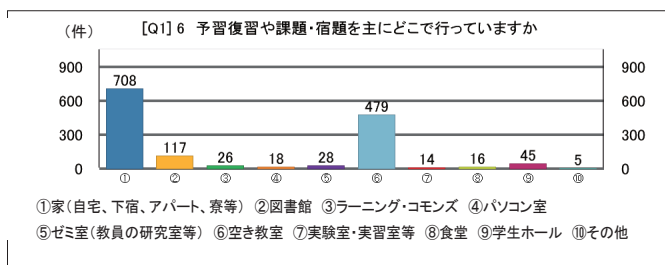
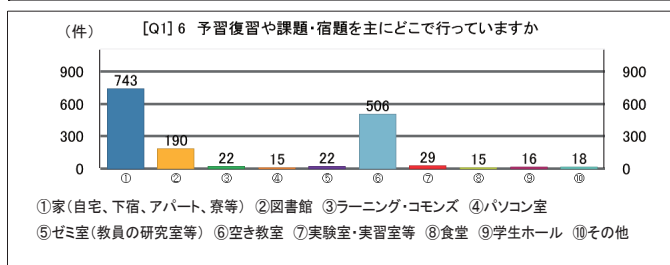
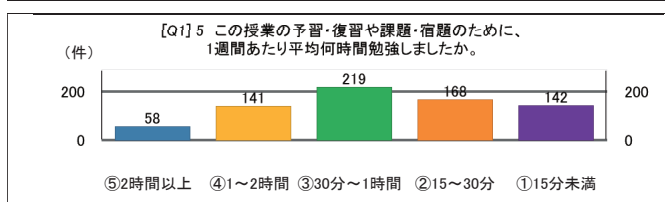
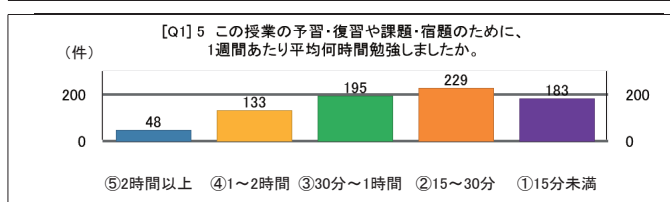
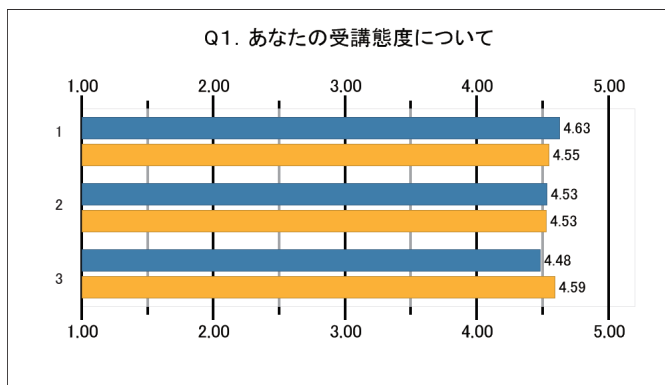
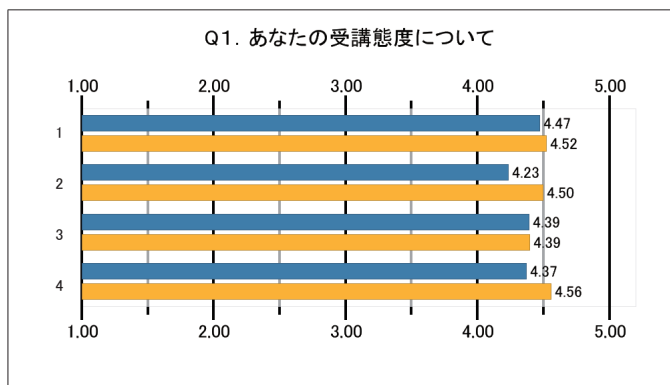
上段:回答者数 / 下段:割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わ ない	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講 しましたか。	458 76.2%	107 17.8%	27 4.5%	5 0.8%	1 0.2%	4.70	4.55
[Q1] 2	授業中に私語、いねむりや携帯電話の使用等を せず教員の話をよく聴くように努めましたか。	323 53.7%	201 33.4%	46 7.7%	22 3.7%	6 1.0%	4.36	4.18
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いま すか。	339 56.4%	188 31.3%	52 8.7%	15 2.5%	4 0.7%	4.41	4.29
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に 取り組んだと思いませんか。	330 54.9%	187 31.1%	61 10.1%	12 2.0%	5 0.8%	4.36	4.27
[Q1] 5	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、 1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 38 6.3%	(1~2時間) 87 14.5%	(30分~1時間) 223 37.1%	(15~30分) 153 25.5%	(15分未満) 93 15.5%	2.69	2.15
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到 達目標は十分に説明されましたか。	368 61.2%	150 25.0%	53 8.8%	18 3.0%	9 1.5%	4.42	4.37
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	414 68.9%	129 21.5%	39 6.5%	12 2.0%	4 0.7%	4.57	4.54
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めて いましたか。	320 53.2%	162 27.0%	63 10.5%	28 4.7%	24 4.0%	4.21	4.28
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切 でわかりやすい授業でしたか。	325 54.1%	150 25.0%	75 12.5%	25 4.2%	21 3.5%	4.22	4.25
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的 でしたか。	317 52.7%	155 25.8%	77 12.8%	35 5.8%	14 2.3%	4.21	4.22
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった ですか。	319 53.1%	143 23.8%	76 12.6%	38 6.3%	21 3.5%	4.17	4.27
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮 がなされていたか。	313 52.1%	157 26.1%	83 13.8%	32 5.3%	11 1.8%	4.21	4.24
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられま したか。	361 60.1%	151 25.1%	56 9.3%	20 3.3%	10 1.7%	4.39	4.39
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていま したか。	345 57.4%	155 25.8%	64 10.6%	22 3.7%	12 2.0%	4.34	4.34
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていま したか。	342 56.9%	140 23.3%	72 12.0%	25 4.2%	17 2.8%	4.27	4.35
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が 達成できましたか。	331 55.1%	167 27.8%	66 11.0%	21 3.5%	13 2.2%	4.31	4.32
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでし たか。	319 53.1%	169 28.1%	61 10.1%	24 4.0%	25 4.2%	4.23	4.26

授業改善のためのアンケート 食物栄養科

平成 30 年度後期

平成 29 年度後期



平成 30 年度前期

上段:回答者数 / 下段:割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わな い	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講しましたか。	516 65.2%	172 21.7%	64 8.1%	25 3.2%	11 1.4%	4.47	4.56
[Q1] 2	授業中に私語、いぬわりや携帯電話の使用等をせず教員の話をよく聴くように努めましたか。	366 46.2%	275 34.7%	112 14.1%	33 4.2%	2 0.3%	4.23	4.39
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	417 52.7%	276 34.8%	78 9.8%	16 2.0%	1 0.1%	4.39	4.50
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	433 54.7%	248 31.3%	82 10.4%	17 2.1%	8 1.0%	4.37	4.52
[Q1] 5	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 48 6.1%	(1~2時間) 133 16.8%	(30分~1時間) 195 24.6%	(15~30分) 229 28.9%	(15分未満) 183 23.1%	2.54	2.43
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到達目標は十分に説明されましたか。	539 68.1%	193 24.4%	49 6.2%	4 0.5%	3 0.4%	4.60	4.54
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	569 71.8%	171 21.6%	42 5.3%	3 0.4%	3 0.4%	4.65	4.57
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	513 64.8%	191 24.1%	61 7.7%	10 1.3%	13 1.6%	4.50	4.46
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	514 64.9%	188 23.7%	63 8.0%	12 1.5%	11 1.4%	4.50	4.46
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的でしたか。	513 64.8%	182 23.0%	65 8.2%	15 1.9%	13 1.6%	4.48	4.42
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	505 63.8%	185 23.4%	66 8.3%	18 2.3%	14 1.8%	4.46	4.45
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	492 62.1%	194 24.5%	76 9.6%	13 1.6%	13 1.6%	4.45	4.40
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	547 69.1%	184 23.2%	42 5.3%	6 0.8%	9 1.1%	4.59	4.53
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていましたか。	535 67.6%	190 24.0%	47 5.9%	6 0.8%	10 1.3%	4.57	4.50
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていましたか。	530 66.9%	182 23.0%	54 6.8%	10 1.3%	12 1.5%	4.53	4.48
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が達成できましたか。	504 63.6%	210 26.5%	58 7.3%	6 0.8%	10 1.3%	4.51	4.48
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでしたか。	510 64.4%	190 24.0%	61 7.7%	9 1.1%	18 2.3%	4.48	4.45

平成 29 年度前期

上段:回答者数 / 下段:割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わな い	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講しましたか。	519 71.3%	171 23.5%	24 3.3%	7 1.0%	7 1.0%	4.63	4.59
[Q1] 2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	475 65.2%	190 26.1%	47 6.5%	9 1.2%	7 1.0%	4.53	4.53
[Q1] 3	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	456 62.6%	198 27.2%	53 7.3%	12 1.6%	9 1.2%	4.48	4.55
[Q1] 4	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 58 8.0%	(1~2時間) 141 19.4%	(30分~1時間) 219 30.1%	(15~30分) 168 23.1%	(15分未満) 142 19.5%	2.73	2.53
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到達目標は十分に説明されましたか。	473 65.0%	164 22.5%	51 7.0%	16 2.2%	18 2.5%	4.47	4.52
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	490 67.3%	164 22.5%	46 6.3%	9 1.2%	13 1.8%	4.54	4.57
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	431 59.2%	160 22.0%	76 10.4%	23 3.2%	32 4.4%	4.30	4.40
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	430 59.1%	170 23.4%	69 9.5%	23 3.2%	30 4.1%	4.31	4.40
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的でしたか。	420 57.7%	171 23.5%	72 9.9%	27 3.7%	32 4.4%	4.27	4.36
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	416 57.1%	164 22.5%	74 10.2%	35 4.8%	33 4.5%	4.24	4.41
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	413 56.7%	177 24.3%	75 10.3%	28 3.8%	29 4.0%	4.27	4.36
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	467 64.1%	170 23.4%	44 6.0%	22 3.0%	19 2.6%	4.45	4.49
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていましたか。	445 61.1%	173 23.8%	61 8.4%	17 2.3%	26 3.6%	4.38	4.45
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていましたか。	448 61.5%	159 21.8%	62 8.5%	25 3.4%	28 3.8%	4.35	4.45
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が達成できましたか。	425 58.4%	187 25.7%	73 10.0%	19 2.6%	18 2.5%	4.36	4.46
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでしたか。	427 58.7%	184 25.3%	55 7.6%	22 3.0%	34 4.7%	4.31	4.41

授業評価に関する学科長見解

食物栄養科 学科長 立松 洋子

[平成 30 年度前期]

本科学生の自己評価Q 1－4は 4.41 と大変努力していることが見受けられる。しかし、予習と復習の時間は全体的に少なく、もう少し学習の時間を取って欲しいと思う。科目によって予習・復習の時間の差が大きく2時間以上の者もいれば、わずか15分の者もいる。講義よりも実験・実習の方に時間をかけていることが窺える。

本科教員の授業評価は、授業内容についてほとんどの教員の評価は良好であり、また、「授業は充実し満足できる」と回答した学生の平均値は4.19であった。実習と講義を比較すると実習では4.31、講義では4.02で実験・実習のポイントが高い。教員によっては、かなり個人差があり、ポイントが低い教員には、自由記述にも厳しい評価が書かれている。これからも継続して一人一人が努力していく必要がある。

[平成 30 年度後期]

本科学生の自己評価Q 1－5の予習・復習時間は前期より少しアップしていた。しかしQ 1－3で授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだ学生が4.37で前期より少し減少する傾向が見られたのが残念である。学生にさらに努力してもらえるような呼びかけが必要である。

本科教員の授業評価では、Q 2のすべての項目が、前期よりもアップし、全体平均値より高い値を示した。教員の一人一人が細部に渡り指導、改善した努力の結果であるといえる。

「授業は充実して満足できる」と回答した学生は4.48と、前期より高い値を示していることは嬉しいことである。依然として、個人差は大きいですが、全体的には良い結果が出ていると思う。今年度は良い結果が出たが、さらに改善を重ね、魅力ある授業ができるよう進めたい。

平成 30 年度 「私の授業改善プラン」 集約一覧

【食物栄養科 前期】

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
立松 洋子	基礎調理 学校栄養指導論 基礎調理 調理実習 II	シラバスと今日の授業の内容と目的をしっかりと説明した。また、デモンストレーションでも理論と実技を結びつけてしっかりと話した。また、手順等を丁寧に説明した。	同じ授業でも授業の評価がクラスでずいぶん違っている。また、1年生は学生自身の授業を受ける評価が高いが授業の評価が低いことから、自分に甘すぎない学生が多くなったように感じている。2年生の評価は前回と変わっていないことがわかった。また、予習、復習、宿題に前向きに取り組んでいない学生が多いように思われる。	このままの授業が良いと考えている。授業で貰った映像機器の調整をしつかりするようになりたい。	授業の内容は変わっていないのに、感じる評価が違うことから、個人差が大きいのは、授業の予習、復習、宿題をしつかりやっているかやっていないかであるのではないかと考える。	宿題をもつことと事前にチェックし、予習復習も手取りに足らないし、質問の傾向も変わってきているようなので、少し引き締めていきたい。また、学生同士で改善できるグループ学習をもつと取り入れたい。
真部 健一	英語 A (会話を含む) 教育学概論	学生の授業への積極的な参加を促すとともに、英語に対する興味関心を少しでも喚起するため、授業の始めにやさしい英語による身近な話題の提供と、それに係る英語での Q-A を引き続き行った。また、演習を行う際に、重要な表現を口頭で発表の場で様々な表現を口頭で発表させようように努めた。	英語 A、教育概論ともに評価は良好であると判断される。ただ、英語 A の 1-B クラスの家庭での学習時間が少ないようである。	わかりやすく、丁寧な授業を行うとともに、生徒とのコミュニケーションを積極的に取り、2時間の授業の中で全員 1 回以上の発表、発言の機会を持たせる。授業を心がけることにより、学生の授業中の存在感・充実感を持たせていることが評価されていると思われる。	英語の学力差が大きい状況の中で、教材を基礎的・基本的なものを使用したり、わかりやすく楽しく授業を目指すことも一人一人に活動の場を与える英語に対する自信を少しでも育てようとする必要がある。また、一人一人に活動の場を与えることが評価されていると考える。	英語での話題の提供、食に関する英単語学習については引き続き行い、問題演習においては学生発表の機会を可能な限り保証していきたい。また、わかりやすく、具体的な説明を心がけるとともに、学生の表現力の育成を図る活動を取り入れるなどの工夫を行い、英語に対する興味・関心を高めていきたい。家庭学習時間の確保のために、予習状況のチェックの回数を 5 回程度実施したい。
海陸 留美	臨床栄養学各論 臨床栄養学実習 I	昨年は授業時間外学習の時間が少ない傾向がみられたため、復習の課題だけでなく、予習の課題(レポート)を出して、授業中に予習内容と説明内容を確認し、過不足をその場で追記・修正させることにした。なお、復習の課題はこれまで通り継続した。	Q 1 および Q 2 の全項目について、概ね良い結果が得られた。授業時間外学習の 1 週間あたりの回数も前回より増え、実習では 1 ~ 2 時間、講義では 30 分 ~ 1 時間と回答した学生が多かった。	「要点を分かりやすく説明され、とても勉強しやすかった。」 「説明の仕方や板書も見やすく、分かりやすかった。」 「プリントと併用してやってくれるのがすごくわかりやすい。」と良いコメントのみであった。	病態の内容を理解させなければならぬので、学生にとっても難しい言葉や内容が多い。そこで教科書やプリントで出てくる難解な内容をかみ砕いた言葉で説明し板書するように心がけている。 また、保育園に就職する学生の割合が多いため、成人の病気だけでなく、栄養士が時に子どもも病気で対応が必要となる疾患である食物アレルギー等に時間をかけて説明するように時間配分の工夫をした。	予習の課題を準備した事で、授業中の理解度が上がったように思う。今後も予習・復習の体制を継続し、学生自身が学習した内容をまとめて、後から復習でリポート等に整理し、後から復習できるようにしていきたい。また、教育効果を上げていきたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
岡本 昭	生物学 食品衛生学実験 公衆衛生学概論 食品衛生学	①教科書には掲載されていないような生物および出来事などスライドを利用して正確な名称等を把握できるように努めた。 ②基本的にプリントに沿って授業をすすめた。 ③小テストの回数を増やし、学習の振り返りに努めた。	①公衆衛生学概論、食品衛生学、食品衛生学実験については全体平均より低い。これらの授業は目指す目標としては必要だが学生の興味は、調理そのものを学ぶことに比較すると、低く、興味を喚起させることが難しく感じている。 ②新入生を対象とした生物学では、ほぼ全体平均にあり、今までの、ある程度、自分の授業が学生に伝わったことを感じることができてよかった。	①時に2年生の意見に、授業の開始をわかっただけで、板書がわからないうちに意見に対しては、学生にはそのように見えていることを自覚しながら、プリント、スライドを使って丁寧に授業をすすらせないで、高校時代に生物を履修した学生と履修しなかつた学生がおり、全員に理解してもらったために、やや、不満足な意見があったのではないかと感じた。	①私の活舌が悪いので、はっきり聞かせていないかもしれない。そこで理解不足が生じている可能性がある。身体的問題もあるのかもしれないが、はっきりとゆくり話すとかが大事と感じている。 ②プリントは基本的に毎年一かから作成しなおしている。今後は、修正も含め検討していく。 ③1年生に対しては話題を広げられるようにして、いろいろレベルの学生に併せられなければならない原因と考えている。	①活舌に関しては、マイクを利用します。 ②プリント、スライドだけではなく、動きのあるDVDなど映像を利用します。 ③ひととひとの項目を確認しながら、丁寧に進めていく。 ④前の授業の確認について、テンポよくやり、復習から入っていく。 ⑤一回につき複数の作業を要求しない。 ⑥実験については時間がかかるものがある。手早く説明するものではなく、丁寧に説明しつつも効率的に学べるよう工夫、プリントの改良も含めて行う。
工藤 孝一	法学(日本国憲法) ●教育方法論 ○教育課程論 英語A(会話を含む)	20年ぶりの授業だったこともあり、緊張感もちながながら授業に臨んだ。初めて行う科目が大半だったので、授業準備に時間をかけて、できるだけ丁寧な授業をすすめるよう心掛けた。	科目によって評価結果に差が出ている。また、評価の厳しい科目においては、入学以前に苦手意識を持っている学生もかなりいるためか、評価が割れている質問もかなりある。	授業で使用しているプリントについては、「分かりやすい」「勉強しやすさ」と好評であった。その一方、授業の進捗については、「はやすぎた」という記述がかなりあった。	授業計画を意識しすぎたあまり、全体的に授業進度が速くなりすぎたところがあった。そのため、苦手意識をもっている学生への配慮、学生間や教員と学生との意見の交換、質問の受付など、意図的に学べるよう工夫、プリントの改良も含めて行う。	・視聴覚機器の活用や教材の工夫等により授業の効率化を図り、苦手意識をもっている学生への配慮、学生間や教員と学生との意見の交換、質問の受付などに割く時間を確保する。 ・授業中に学生がより多く発言できるようにする。
東保 美香	栄養教育論実習 食生活論 栄養情報処理	講義にもグループワークを多く取り入れ、アクティブラーニングを実践した。時間外学習を実施するため、小テストや復習課題を設けた。授業中や授業後に理解度や到達度が確認できるように声掛けを行ない、質問しやすい環境づくりを努めた。パソコン教室のホワイトボードが見やすくなるように、字の大きさを教室の明るさに気を付けた。	Q1、Q2ともに概ね良好であったが、課題への積極性、満足度が平均を下回る科目があった。特に時間外学習は例年通り、1時間未満の学生が多かった。授業説明のわかりやすさは科目別に見られた。	栄養教育論実習や食生活論ではグループワークが多かったため、協力して学ぶことができ、意欲的に取り組む学生が多かった。栄養情報処理ではパソコンを用いた演習が多く、前年度に比べてスクリーンやホワイトボードの見やすさなど学習環境が改善されていた	予習プリントを配付したが、教科書を書き写す課題が多かったため、意欲的な時間外学習にはつながらなかった。授業説明の理解度については科目間で差がみられたのは、教科書を用いた説明のみになつていたことが原因だと考えられた。講義にグループワークを多く取り入れたことで、発表やディスカッションを通して他者の意見を聞くことが学習意欲につながっていた。	予習プリントの内容を改善し、調べ学習など時間外学習が充実できるように工夫する。講義にもグループワークを多く取り入れ、学生同士が意見を交換できる発表やディスカッションの場を設ける。小テストを実施し、点数の低い学生には授業後に声掛けを行い、質問しやすい環境づくりを努める。授業の進め方や難易度について、無記名のミニッツペーパーを用いて学生の意見を把握する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
衛藤 大青	食品学 情報機器論 基礎演習 食品加工学 進路指導Ⅱ フードシステム キャリアスト 論	平成30年度前期の授業を行う際に、新しく実践しられる。 ①ミニッツペーパーの配布 ②e-learningシステム(moodle)を一部の授業で活用	今回の評価結果で特徴的であったのが、 ①「Q1:あなたの受講態度について」の点数が全体的に低く、 「Q2:授業内容について」が全体的に高い ②「Q1については特に【Q1-2】の授業中の私語・いねむりに関する質問と、【Q1-5】の予習・復習の時間に関する質問の結果が低い ③同一科目を複数クラスで開講しているものについては、クラス間での評価の差が大きい。という3点があげられる。	「わかりやすい」や「スライド(PowerPoint)を使用した授業がよい」という意見が多く見られた。 改善点には「授業のペーペースをもう少しゆっくりにしてほしい」という意見が複数あった。	「Q2:授業内容について」は安定して良い評価がもたらされており、これは授業評価アンケートの結果を基に、毎年授業で使用するスライドの内容を少しずつ改善している成果が表れていると考える。一方でスライドで頼りかたになり、そこに集中できている学生がいねむりなどをしていることが【Q1-2】の結果などにもつながってしまったと考える。また、複数クラスで開講している科目でも、内容や説明の仕方等は同じであり、クラスや学生によって変更などは行っていない。その講義内容で理解できる学生は良い評価を付けているが、理解できない学生は低評価をつける。その差が顕著に出たのが、今回のクラス毎の差につながったのではと考える。	基本的な授業内容などは現状のものを維持しつつ、後期はmoodleなどを多用し、学生がより参加しやすい授業を意識する。また、学生の学習に関する進捗状況や理解度なども定期的に確認を行うようにし、その結果によって講義内容の説明方法を変えるなど、クラスや学生にあった講義を行うことを心掛ける。 授業時間外の学習についても、簡単な反転授業を行ってみるなど、学生が予習や復習を積極的に行う環境作りを考えていきたい。
藤岡 竜太	生化学実験 生化学 基礎栄養学実験	講義の授業については教科書の説明を分かりやすくするため従来からの授業プリントに沿う内容に改善し、学生に配布して使用した。ただ、講義に使用するスライドの充実を図ることはできなかった。また、実験の授業については内容を少し変更して、より学生たちが面白くと思う内容にし、授業プリントも新たに作成し配布して、授業改善を図った。	実験科目は全体的に平均もしくは比較的良好な評価を得られたが、講義科目は全体的に平均より低い結果となった。また【Q1】2、【Q1】3、【Q1】4、【Q2】9と【Q2】11の評価が特に低かったため授業改善をしていく必要があると考える。	改善点について、声量が小さいこと、話すスピードが速い、板書がみづらぐらいとの記述があったので授業環境の改善を徹底するとともに学生にその都度確認をしていきたい。また授業の目的をはっきり伝えていない点やポイントの見え方も見受けられたので真摯に受け止めたい。	学生の受講態度が低い結果(Q1)2、(Q1)3、(Q1)4については授業ごとに注意喚起の徹底を図らなかったためと考えられる。(Q2)9と(Q2)11に関しては全ての授業や実験で目標を確認を怠った点、また学びの環境改善や私語の注意をしっかりとそれらに付随した内容が自由記述でも見受けられた。	学生自身の授業態度の向上を促すために、授業での注意喚起の回数を増やして授業環境の改善を行っていききたい。また、授業プリントの文字を減らして、図や表を取り入れるなどし、見やすくするとともに、学生が授業をしっかりと受けているか目視確認していくようにしたい。そして、聞いている学生を意識した話し方にし、板書もできるだけ見やすくするように特に書く場所と授業プリントに沿った順序、色分けに注意して分かりやすくしていきたい。
浜野 香奈	栄養教育論 給食計画論 給食実務論	前期は90分、ほぼ講義ばかりであったため要点がつかめにくい、メリハリがないなどの指摘があり、今期は予習、講義、小テストなど授業に区切りをつけて行うこととした。	授業を行うことばかりに気をとられていたと反省した。学生の指摘事項は自身でも感じるところであった。	栄養士の実務についていたことが評価されたことはいずれも良かった。	実務に追われ座学がないがしんどいところがあったことを痛感した。	・授業の流れにメリハリをつける。 ・配布するプリントを見直す。 ・予習、復習が自然と出来るような授業内容にしていく。 ・板書が整理されたものにするよう見直す。

【食物栄養科 後期】

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
立松 洋子	栄養教育実習指導 栄養教育実習 (栄養 教職実践演習 (栄養 教諭) 調理実習Ⅰ 調理実習Ⅲ)	1年の間に到達目標を確実にクリアする授業をした。個人の能力に合わせ、実習中の一人一人の声かけと指導を強化した。学生同士で改善できるグループ学習を取り入れた。	学生の授業への取り組み方がクラスで違いすぎる。その理由として予習、復習、宿題の時間の違いに現れ、比較すると、宿題の提出状況が悪かったのはこのような理由かもしれないと思われ。教員の授業評価については今までもとても高いが、アンケートに回答した学生が少し少ないのではと考える。	記述がほとんど書かれていなかった。実習能力が低下しているように感じられたので、内容によって授業の用意を事前にすると朝早くなることもある学生がいた結果が現れていた。	一人一人に対応した実習を心がけた結果だと考えられる。	授業評価は大変良くなったが、学生の予習、復習時間が全く取れていないことが気になるので、宿題をもっとこまめにチェックし、予習復習の指導にも力を入れた。どうしてもクラスの雰囲気の影響が授業に影響することから、学生の授業環境も授業を受けやすい環境にしたい。さらに、実習中の一人一人の声かけと指導を強化し、グループ学習を取り入れて互いに切磋琢磨させていきたい。また、質問や意見を述べる機会を増やすようにする。
真部 健一	英語B(会話を含む) 実習指導(事前及び事後の指導) 教職実践演習(中学校)	わかりやすい説明、食に関する基本的語彙の習得を旨としてともに、重要な表現等については反復応用練習の活動を積極的に取り入れるなど、学生の活動を重視した授業になるように努めた。	授業に対する評価は良好であるが、Q1の学生の授業への取り組みについては、不十分な点もある。	授業に対する熱心さ、丁寧なわかりやすい説明、学生の活動を促す授業が好感を持たれているようである。	英語のを苦手とする学生が多いので、時には中学校レベルの、丁寧なでわかりやすい指導を行うことにより、少しでも自信を持つことができるように努めていることが良好な評価になっているとおもわれる。Q1の学生の授業への取り組みについては、クラスの持つ特性と関連しているようであるが、学習習慣の改善については今後も更なる工夫が必要である。	学生主体の授業、わかりやすい説明を心がけ実践していくために、投げ込み教材の改善、英語による表現活動を取り入れてみたい。
海陸 留美	臨床介護栄養実習Ⅰ 給食経営管理実習Ⅰ	実習の中に積極的にグループワークを取り入れ、グループワーク終了後に各班が作成した内容についてブレインストーミングを実施した。自分の班以外の取組内容を共有し評価できるようにした。	Q1およびQ2の全項目について、概ね良い評価が得られたが、給食経営管理実習Ⅰの片方のクラスにおいて授業時間外学習の時間が短く(15~30分)、Q1(学生自身の実践態度)の点数が全体平均より低かった。	自由記述欄では、「説明がわかりやすく理解しやすかった」「難しい事はわかりやすく理解できるように工夫されていた」という高評価がほとんどであった。しかし、1件のみ「計算などを徹底して教えてほしい」という意見がみられた。	学生が苦手とする内容についてはわかりやすく説明するように資料や説明の仕方の工夫をしていることが高評価につながったと思われた。しかし、給食経営管理実習Ⅰの片方のクラスは、授業時間外学習の時間が短くQ1の評価が全体平均より低かった。これは、グループワークを主体とする授業であったことから、グループの中での子とやらない子の差が激しかった事が大きく影響したように見受けられた。計算については、順を追って途中の計算式(計算方法)も全て板書して徹底的にゆっくりに進めたが、理解できなかつた学生がみられるようであった。	高評価が得られた部分については継続していきたい。グループワークを実施する時に、班長や副班長を設けるとその学生のみが課題を仕上げ、その他の学生は取り組まないという傾向がみられたので、グループワークを実施する時の役割分担についてきちんと説明する必要があると思われた。また、計算を特に苦手とする学生が年々増えてきているため、全体説明だけでなく個別の対応が必要であると感じた。

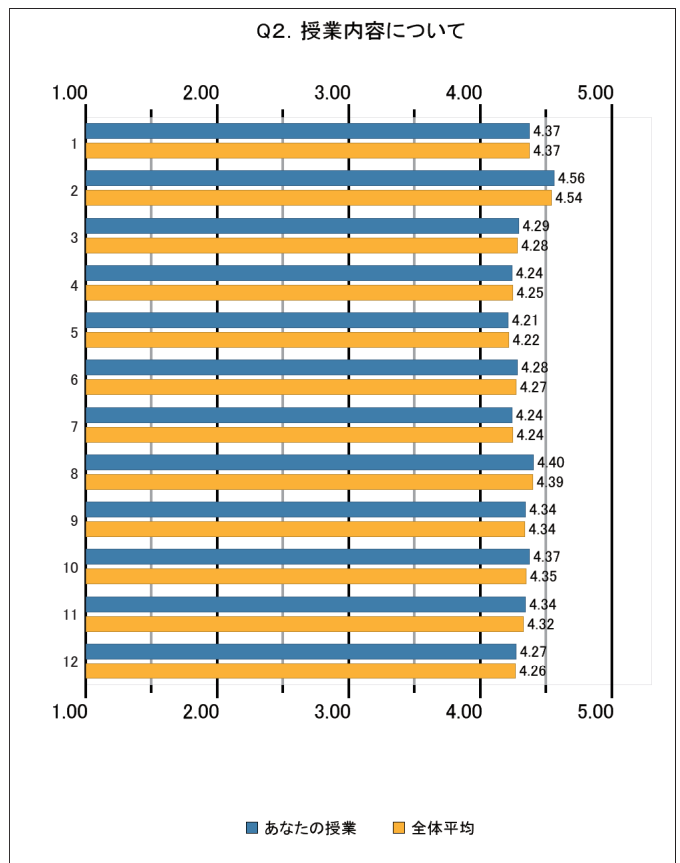
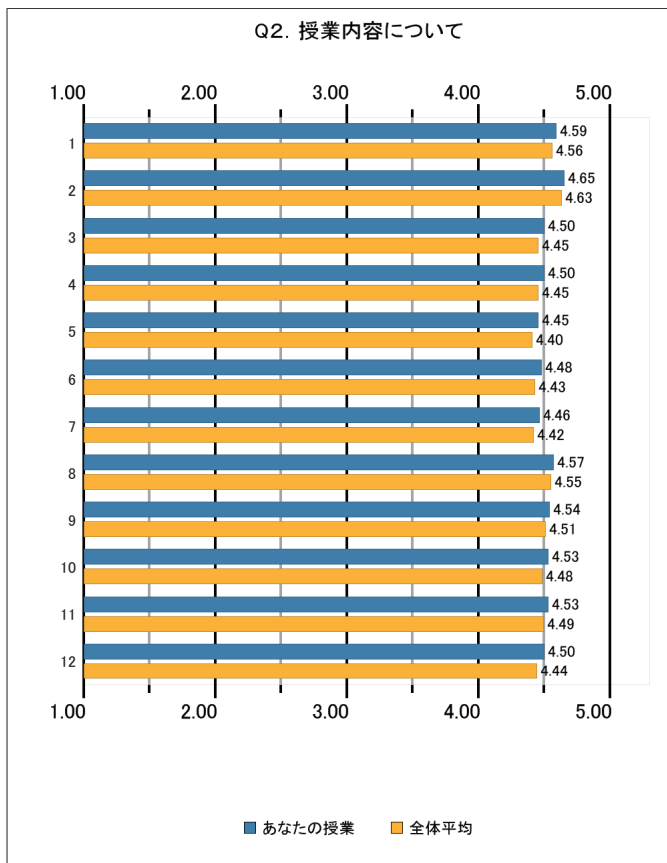
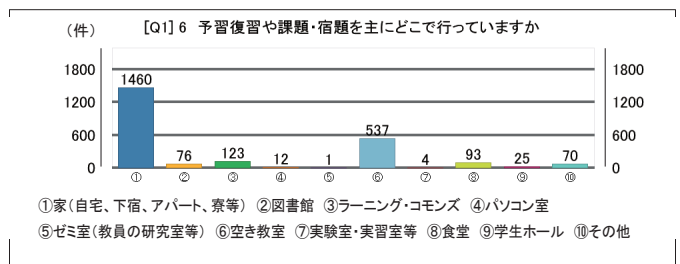
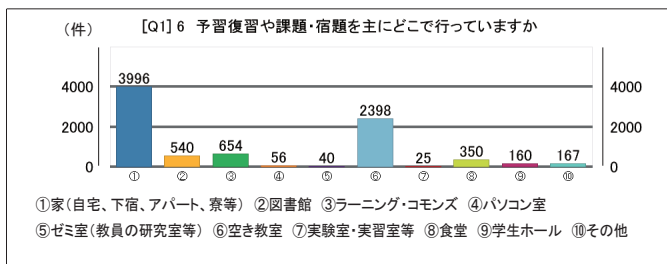
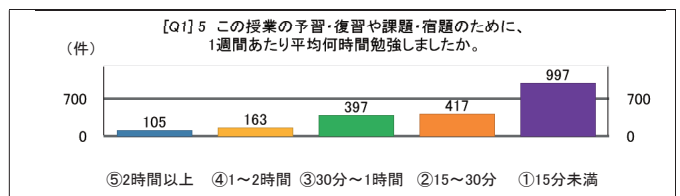
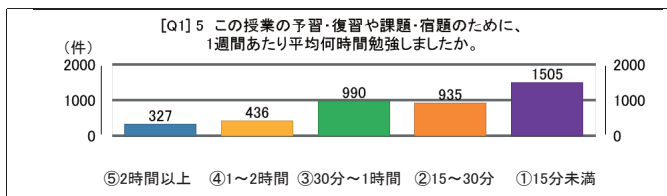
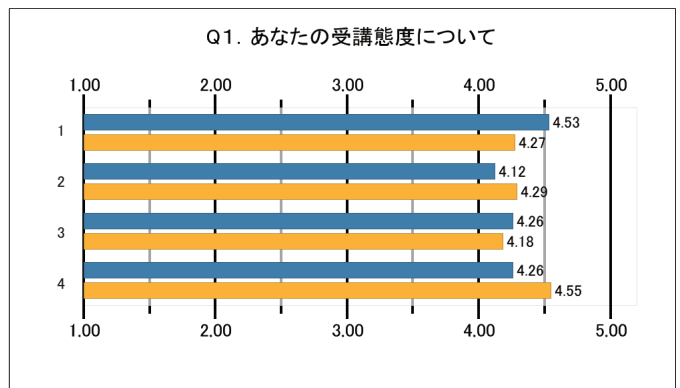
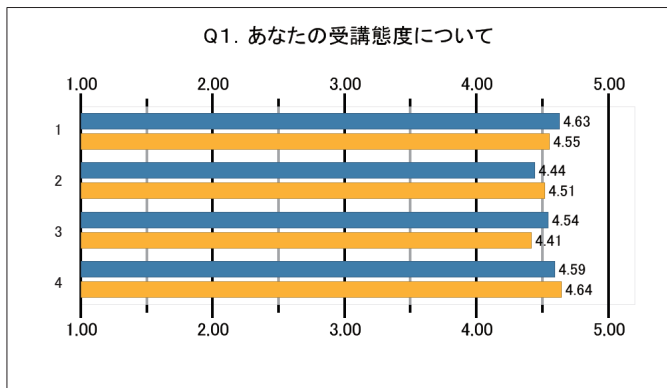
教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
岡本 昭	地域社会論 進路指導Ⅰ 健康管理概論 運動生理学 食の安全と鑑別 公衆栄養学総論	①活舌に関しては、大きな講義室ではマイクを利用した ②プリント、スライドだけではなく、動きのあるDVDなど映像を利用した。 ③前の授業の確認について、テストを利用して、復習から入っていった	進路指導Ⅰ、地域社会論については、すべての項目について4点台であり、ほぼ学生の満足度に関しては達成できていると思ふ。健康管理概論及び食の安全と鑑別では話し方が3点台をのぞくとほぼ4点台だが資格試験に全員合格した結果よりほぼ、達成できていた。運動生理学、公衆栄養学総論は3点台が多いが、栄養士を目指す学生にとつては応用的な科目で全体平均低い結果となり興味を喚起させることが難しく感じている。	自由記述に関し記述量が少なくなかった。わかなくなかった意見も従来より少なくなつたのは改善が生かされてきたのではなかいか。わかなくなつた記述があるが、どうかわからなければ記述してもらおうと改善しやすいと考える。	①今期は少人数の受講科目、100人近くの受講科目など多様な科目を受け持った。従来より手ごたえのある授業および準備ができたと考ええる。 ②応用的な科目が多いので基礎に指導していく。また、理解度の違う学生に対してどのレベルに焦点を当てていけばよいか迷いがある。 ③私の活舌が悪いので、はっきり聞かなくていいかもしれない。そこで理解不足が生じている可能性がある。身体的問題もあるのかもしれないが、はっきりゆっくり話すことが大事と感じている。	①大きな講義室では、マイクを利用します。 ②プリント、スライドだけではなく、動きのあるDVDなど映像を利用します。 ③ひとつひとつの項目を確認しながら、丁寧に進めていきます。 ④前の授業の確認について、Moodleや小テストを利用して、復習から入っていきます。 ⑤実験については時間がかかるものがある。手早く説明しつものではなく、丁寧に説明しつもの効率的に学べるような工夫、プリントの改良も含めて行います。
工藤 孝一	英語B(会話を含む) 教職概論 生徒指導論	ICT機器の活用や教材の工夫により授業の効率化を図り、苦手意識をもっている学生への配慮、学生間や教員と学生との意見交換、質問の受付などに時間を確保するようにした。	授業開始時点で、苦手意識を持っている学生が多いと推測される科目の評価が、前期に比べれば伸びているもの、感度、まだ改善の余地が多いと感じた。他の科目は概ね良好であった。	授業時に使用しているプリントについては「分かりやすい」と概ね高い評価を受けているが、書き込む内容についての確認が、書き込みの内容は学生個人の裁量に任せさせており、書き込んだ内容のポイント等の確認をしていなかったためである。	苦手意識のある学生への配慮が、前期からある程度改善されてはいたが、まだまだ不十分なところがあった。また、授業時のプリントの扱いについても一層の配慮が必要であった。	ICT機器の一層の活用やプリント教材の扱い方の工夫等を行い、授業のポイントの確認や理解を促進する手助けを強化することにより、一層わかりやすい授業の構築を図る。
東保 美香	臨床栄養学総論 栄養カウンセリング論	時間外学習の時間を増やすために、毎回実施する復習テストも(穴埋め)を前回のテスト分も含めて再度復習できるように内容を変更した。授業中に理解度や到達度が確認できるよう、授業中は質問しやすい環境づくりに努め、授業開始前や終了後などに声かけを行った。意欲的に授業に取り組めるよう、講義においてもグループで取り組み課題を設け、アクティブラーニングを取り入れた。	授業内容の評価は前年度に比べてよかつたが、受講態度の評価が低かつた。特に、遅刻・欠席した者が多く(Q1-1)、授業中の態度に対する評価が低かつた(Q1-2)。Q1-5(授業時間外学習)では前年度に比べて30分以上の学生も多くなつたが、30分～1時間未満の者が多く、時間外学習の時間が少なかつた。	講義にグループワークやロールプレイングなど、アクティブラーニングを取り入れたこと、また学生の意見を聞く時間を設けたこと、高評価による授業も分かつた。	時間外学習の時間を増やすために復習テストを設けているが、授業内容が理解できている丸暗記する程度の学習になっており、自主的な学習には至っていないと考えられた。講義にアクティブラーニングを取り入れることで意欲的に学ぶ学生が増え、学生の意見を聞く良い機会となった。受講態度について、復習テストの点数が低い学生への個別対応が不十分であったことや、遅刻や居眠りなど開講開始時には注意を行うが、次第に注意する回数が減つたため、受講態度の改善には至らなかつた。	復習テストの点数の低い学生には個別に対応し、授業時間外での声かけを行い、補習時間や居眠りなど対策を考へる。遅刻や居眠りなどは授業終了後に時間を設けて対応する。授業の進め方や難易度について、無記名のミニッツペーパーを用いて把握することを提議し、自主的に調べ学習ができるよう復習内容を検討する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
衛藤 大青	フードコーディネート論 食品加工学実習 フードマーケティング論	後期に担当した全ての科目で moodle を活用し、予習や復習、小テストの勉強などを moodle 上で行えるようにした。	[Q 1] 1-5 の授業時間外の学習時間が、前期に比べて伸びている。その他の項目に関しても概ね良い評価をもらっていたが、[Q 1] 1-2 の私語、いねむりや携帯電話の使用等をせず教員の話聴くように努めたかかの結果となっていた。	「わかりやすい」という記述を多くもらっていた。しかし、「こわい」という意見も見られた。	後期の授業では moodle を活用し、スマートフォンなどを利用して予習や復習などを行えるようにしたため、授業時間外の学習もしやすくなり、結果として [Q 1] 5 の評価の伸びにつながったと考える。 自由記述の改善してほしい点については、担任するクラスにおいて授業以外についての注意等も加わったため、「こわい」という印象を与えてしまったと考える。	引き続き moodle を活用し、学生が空き時間等を利用して主体的に学習を行えるよう工夫する。また講義時間についてはいねむり等を行わず、学生が集中して学習を行えるよう、グループ学習や話し合いの機会などを増やすように努める。一方で、注意などを行う際にも、なぜそれが必要かなどを伝えながら順序立てて行うようにする。
藤岡 竜太	解剖生理学 解剖生理学実験 基礎栄養学	私語や居眠りなど授業態度の向上を図るために積極的に注意喚起を促すとともに短時間の休憩を取り入れて、学生の授業を受ける姿勢の改善を図った。また、アクティブラーニング型の授業に対応するために、講義の授業で学生どうし考えさせる時間を設ける試みを行った。	注意喚起を行ったが学生の受講態度について 1-2、1-3、1-4 が平均以下の評価がとて多かった。授業内容については特に講義の科目において 2-4、2-5、2-7 の項目が平均的に低い評価であった。	「ポートフォリオにプリントを綴じるため、端の文字が見えなくなると改善してほしい」との記述や「教科書を読むことが長い」との指摘があった。一方で「プリントの指摘がわかりやすい」との意見も見られ、「生徒に考えさせるといい」とのコメントや講義の授業形式に関する記述が目立った。	1-2、1-3、1-4 については積極的な私語や居眠りなどの注意喚起をしたつもりでいたことが要因である。2-4、2-5 については板書や授業プリントの積極的な改善をしていなかった。2-7 や自由記述の指摘は一方向的な授業になり学生の理解度をそつと、しっかりチェックできていなかったことが要因として考えられる。	適宜、休憩も授業に取り入れられながら、私語や居眠りなどの注意喚起の徹底を図る。後期は板書や授業プリントの改善ができていなかったの、まずは授業が学習しやすいように内容を改善し、プリントの端に余白を入れる。教科書の使い方について読み内容を限定的にして長くはないように調整したい。引き続き、学生に考えさせ取り入れていく内容も少しずつ取り入れていく。アクティブラーニングにも対応した講義をしていきたいと考えている。
浜野 香奈	応用栄養学 栄養カウンセリング 実習 調理学	授業内容に沿った予習プリントを配布して事前学習を行わせ、スライドを用いて解説するという方法で講義を行った。後半の30分は練習問題で授業の復習を行った。2人1組で課題を与え、発表形式の振り返り授業を行った。	Q 2-3 の評価に関して一方的な授業にならないように、また学生の理解度について授業ごとに個別に評価し、きめの細かい指導の必要性を感じた。 Q 2-8 の「熱意や真剣さ」については概ねよい評価であるが、それが 10 や 12 の「わかりやすい」や「充実・満足度」にはつながっていないことがわかった。	予習プリントと振り返り授業のアクティブラーニングに対する評価が得られたことは嬉しく感じた。 内容が詰め込み過ぎであること、またそれを終わらせるために駆け足にならざるを得なかった点で自分自身でも感じた反省点があった。	選定したテキストの内容を全て授業に盛り込もうとしたため、「プリントの書く量が多い」「進み方が早く追いつけない」「記入欄が狭く書きにくい」との意見の記載は取らなかった。また意見の記述は、取り上げたテーマや内容が適切であったかとの反省が残った。	「予習プリント」による事前学習 ⇒ 講義 ⇒ 練習問題という授業の進め方は引き続き行っていきたい。 ・予習プリントについては、学習しやすい内容、記載しやすい様式を検討したい。 ・座学においても実習において、んだ内容を検討したい。 ・授業の取り組み姿勢、課題の提出状況の評価に重きをおく。 ・学生が自ら学ぶことが出来るようになる内容となるよう工夫する。 ・振り返り授業のアクティブラーニングは学生の負担にならない、楽しく学べる内容を検討する。

授業改善のためのアンケート 初等教育科

平成 30 年度前期

平成 29 年度前期



平成 30 年度前期

上段：回答者数 / 下段：割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わな い	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講しましたか。	2966 70.7%	970 23.1%	196 4.7%	45 1.1%	16 0.4%	4.63	4.64
[Q1] 2	授業中に私語、いぬむりや携帯電話の使用等をせず教員の話をよく聴くように努めましたか。	2394 57.1%	1349 32.2%	369 8.8%	69 1.6%	12 0.3%	4.44	4.41
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	2659 63.4%	1212 28.9%	277 6.6%	36 0.9%	9 0.2%	4.54	4.51
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	2788 66.5%	1115 26.6%	257 6.1%	24 0.6%	9 0.2%	4.59	4.55
[Q1] 5	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 327 7.8%	(1~2時間) 436 10.4%	(30分~1時間) 990 23.6%	(15~30分) 935 22.3%	(15分未満) 1505 35.9%	2.32	2.34
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到達目標は十分に説明されましたか。	2824 67.4%	1062 25.3%	246 5.9%	33 0.8%	20 0.5%	4.59	4.56
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	3039 72.5%	905 21.6%	197 4.7%	26 0.6%	18 0.4%	4.65	4.63
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	2680 63.9%	1080 25.8%	323 7.7%	57 1.4%	45 1.1%	4.50	4.45
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	2696 64.3%	1044 24.9%	337 8.0%	62 1.5%	46 1.1%	4.50	4.45
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的でしたか。	2613 62.3%	1039 24.8%	391 9.3%	89 2.1%	53 1.3%	4.45	4.40
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	2686 64.1%	1010 24.1%	365 8.7%	80 1.9%	44 1.0%	4.48	4.43
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	2627 62.7%	1055 25.2%	369 8.8%	80 1.9%	54 1.3%	4.46	4.42
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	2814 67.1%	1024 24.4%	291 6.9%	33 0.8%	23 0.5%	4.57	4.55
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていましたか。	2776 66.2%	1023 24.4%	302 7.2%	53 1.3%	31 0.7%	4.54	4.51
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていましたか。	2750 65.6%	1012 24.1%	328 7.8%	64 1.5%	31 0.7%	4.53	4.48
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が達成できましたか。	2673 63.7%	1138 27.1%	304 7.3%	42 1.0%	28 0.7%	4.53	4.49
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでしたか。	2715 64.8%	1023 24.4%	326 7.8%	68 1.6%	53 1.3%	4.50	4.44

平成 29 年度前期

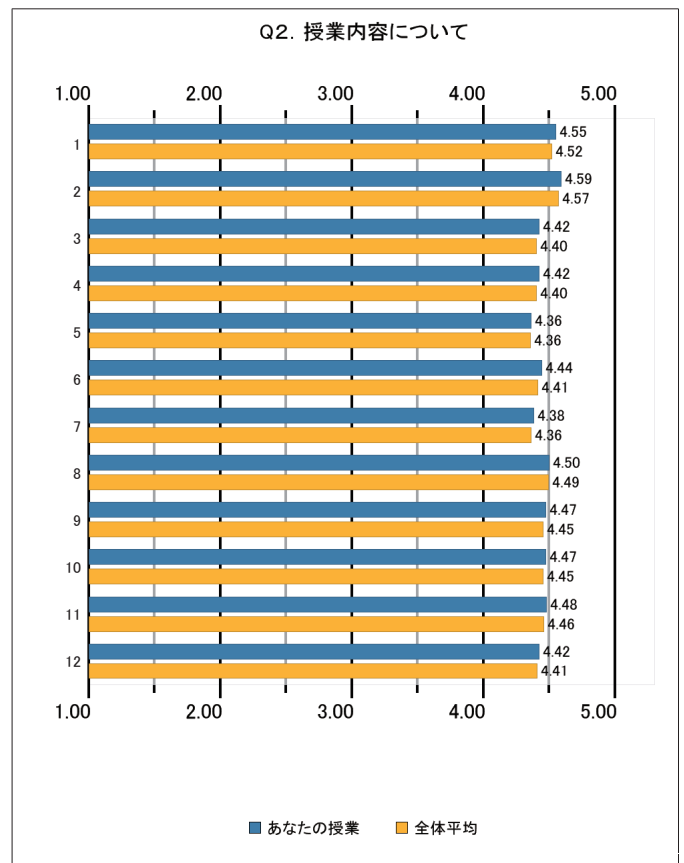
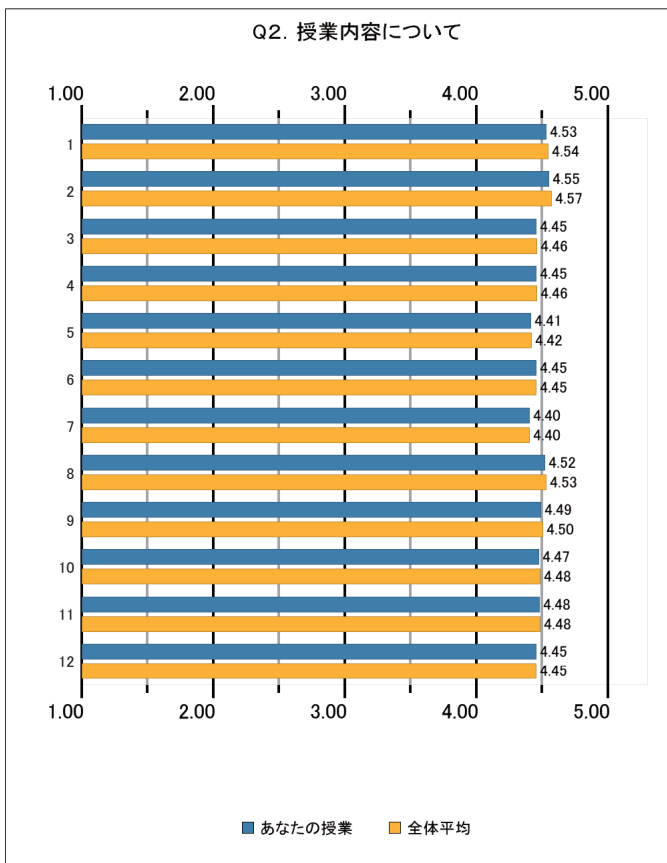
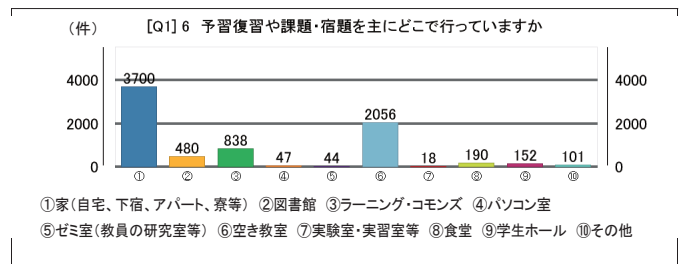
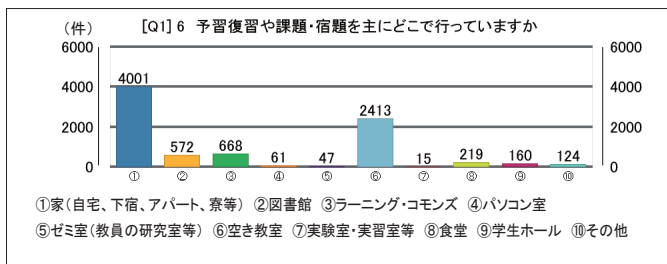
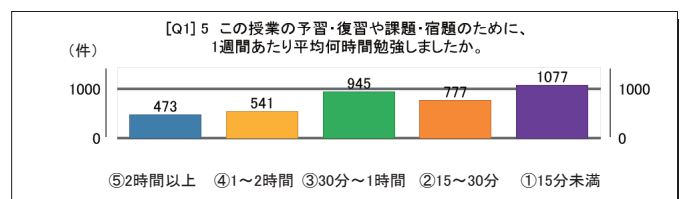
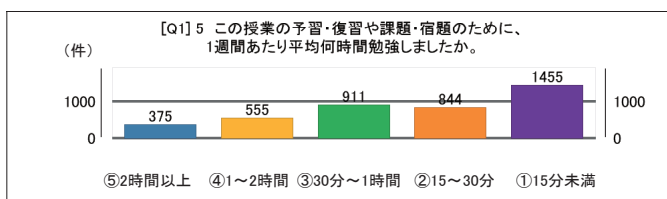
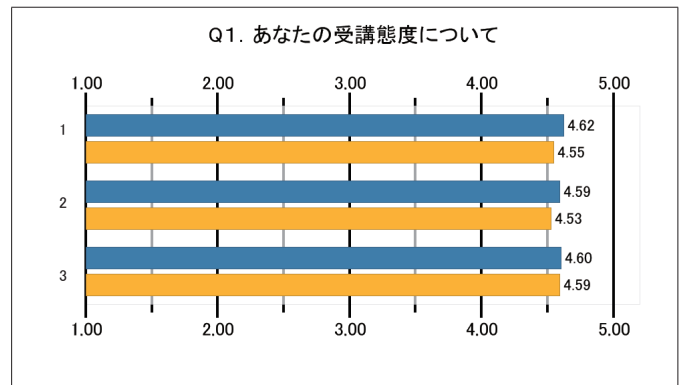
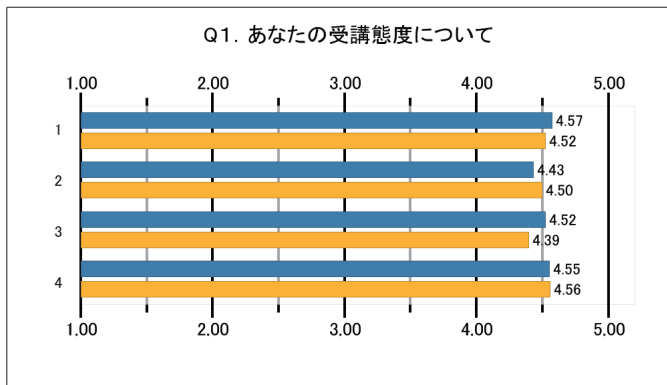
上段：回答者数 / 下段：割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わな い	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講しましたか。	1413 67.2%	487 23.2%	126 6.0%	35 1.7%	35 1.7%	4.53	4.55
[Q1] 2	授業中に私語、いぬむりや携帯電話の使用等をせず教員の話をよく聴くように努めましたか。	854 40.6%	782 37.2%	353 16.8%	83 3.9%	23 1.1%	4.12	4.18
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	975 46.4%	773 36.8%	293 13.9%	44 2.1%	9 0.4%	4.26	4.29
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	1043 49.6%	640 30.4%	352 16.7%	40 1.9%	13 0.6%	4.26	4.27
[Q1] 5	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 105 5.0%	(1~2時間) 163 7.8%	(30分~1時間) 397 18.9%	(15~30分) 417 19.8%	(15分未満) 997 47.4%	2.00	2.15
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到達目標は十分に説明されましたか。	1102 52.4%	707 33.6%	257 12.2%	25 1.2%	6 0.3%	4.37	4.37
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	1380 65.7%	550 26.2%	138 6.6%	23 1.1%	3 0.1%	4.56	4.54
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	1082 51.5%	664 31.6%	261 12.4%	65 3.1%	23 1.1%	4.29	4.28
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	1045 49.7%	657 31.3%	288 13.7%	78 3.7%	28 1.3%	4.24	4.25
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的でしたか。	1006 47.9%	655 31.2%	331 15.7%	77 3.7%	26 1.2%	4.21	4.22
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	1094 52.0%	629 29.9%	285 13.6%	56 2.7%	29 1.4%	4.28	4.27
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	1073 51.0%	588 28.0%	339 16.1%	65 3.1%	31 1.5%	4.24	4.24
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	1190 56.6%	620 29.5%	237 11.3%	34 1.6%	15 0.7%	4.40	4.39
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていましたか。	1139 54.2%	628 29.9%	265 12.6%	38 1.8%	21 1.0%	4.34	4.34
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていましたか。	1171 55.7%	616 29.3%	246 11.7%	39 1.9%	25 1.2%	4.37	4.35
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が達成できましたか。	1083 51.5%	678 32.3%	301 14.3%	30 1.4%	5 0.2%	4.34	4.32
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでしたか。	1072 51.0%	651 31.0%	280 13.3%	60 2.9%	33 1.6%	4.27	4.26

授業改善のためのアンケート 初等教育科

平成 30 年度後期

平成 29 年度後期



平成 30 年度後期

上段：回答者数 / 下段：割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わな い	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講しましたか。	2788 67.0%	1060 25.5%	201 4.8%	59 1.4%	32 0.8%	4.57	4.56
[Q1] 2	授業中に私語、いぬむりや携帯電話の使用等をせず教員の話をよく聴くように努めましたか。	2324 58.8%	1353 32.5%	382 9.2%	62 1.5%	19 0.5%	4.43	4.39
[Q1] 3	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	2562 61.6%	1250 30.0%	267 6.4%	38 0.9%	23 0.6%	4.52	4.50
[Q1] 4	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	2633 63.3%	1215 29.2%	245 5.9%	34 0.8%	13 0.3%	4.55	4.52
[Q1] 5	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 375 9.0%	(1~2時間) 555 13.3%	(30分~1時間) 911 21.9%	(15~30分) 844 20.3%	(15分未満) 1455 35.0%	2.41	2.43
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到達目標は十分に説明されましたか。	2574 61.8%	1252 30.1%	254 6.1%	27 0.6%	25 0.6%	4.53	4.54
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	2654 63.8%	1175 28.2%	254 6.1%	30 0.7%	19 0.5%	4.55	4.57
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	2451 58.9%	1229 29.5%	359 8.6%	56 1.3%	37 0.9%	4.45	4.46
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	2459 59.1%	1211 29.1%	352 8.5%	73 1.8%	37 0.9%	4.45	4.46
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的でしたか。	2363 56.8%	1261 30.3%	388 9.3%	64 1.5%	56 1.3%	4.41	4.42
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	2452 58.9%	1229 29.5%	348 8.4%	60 1.4%	43 1.0%	4.45	4.45
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	2369 56.9%	1215 29.2%	413 9.9%	85 2.0%	50 1.2%	4.40	4.40
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	2585 62.1%	1192 28.6%	286 6.9%	44 1.1%	25 0.6%	4.52	4.53
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていましたか。	2515 60.4%	1252 30.1%	284 6.8%	48 1.2%	33 0.8%	4.49	4.50
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていましたか。	2501 60.1%	1220 29.3%	315 7.6%	60 1.4%	36 0.9%	4.47	4.48
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が達成できましたか。	2434 58.5%	1324 31.8%	314 7.5%	34 0.8%	26 0.6%	4.48	4.48
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでしたか。	2413 58.0%	1302 31.3%	318 7.6%	46 1.1%	53 1.3%	4.45	4.45

平成 29 年度後期

上段：回答者数 / 下段：割合

		5. そう思う	4. どちらかとい えばそう思う	3. どちらともい えない	2. どちらかとい えばそう思わな い	1. そう思わない	あなたの 講義	全体平均
[Q1] 1	あなたはこの授業を休んだり遅刻しないで受講しましたか。	2731 71.6%	829 21.7%	164 4.3%	53 1.4%	36 0.9%	4.62	4.59
[Q1] 2	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	2558 67.1%	1009 26.5%	196 5.1%	35 0.9%	15 0.4%	4.59	4.53
[Q1] 3	この授業内容の課題やレポートなどに積極的に取り組んだと思いますか。	2598 68.1%	968 25.4%	194 5.1%	36 0.9%	17 0.4%	4.60	4.55
[Q1] 4	この授業の予習・復習や課題・宿題のために、1週間あたり平均何時間勉強しましたか。	(2時間以上) 473 12.4%	(1~2時間) 541 14.2%	(30分~1時間) 945 24.8%	(15~30分) 777 20.4%	(15分未満) 1077 28.2%	2.62	2.53
[Q2] 1	この授業でシラバスに示されている授業概要・到達目標は十分に説明されましたか。	2475 64.9%	1028 27.0%	214 5.6%	41 1.1%	29 0.8%	4.55	4.52
[Q2] 2	授業時間は確保されていましたか。	2624 68.8%	898 23.6%	190 5.0%	41 1.1%	34 0.9%	4.59	4.57
[Q2] 3	学生の理解度や到達度を確認し、授業を進めていましたか。	2286 60.0%	1038 27.2%	313 8.2%	84 2.2%	66 1.7%	4.42	4.40
[Q2] 4	教材(テキスト・配布資料)、教具の利用は適切でわかりやすい授業でしたか。	2290 60.1%	1027 26.9%	319 8.4%	89 2.3%	62 1.6%	4.42	4.40
[Q2] 5	板書の仕方や視聴覚機器による提示は効果的でしたか。	2181 57.2%	1044 27.4%	384 10.1%	107 2.8%	71 1.9%	4.36	4.36
[Q2] 6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	2334 61.2%	975 25.6%	323 8.5%	105 2.8%	50 1.3%	4.44	4.41
[Q2] 7	学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていましたか。	2228 58.4%	986 25.9%	416 10.9%	92 2.4%	65 1.7%	4.38	4.36
[Q2] 8	教員の授業に対する熱意・真剣さが感じられましたか。	2424 63.6%	990 26.0%	268 7.0%	66 1.7%	39 1.0%	4.50	4.49
[Q2] 9	教員は学びの環境を保つように配慮をしていましたか。	2348 61.6%	1032 27.1%	282 7.4%	77 2.0%	48 1.3%	4.47	4.45
[Q2] 10	教員はわかりやすく説明するように努めていましたか。	2362 61.9%	1010 26.5%	289 7.6%	74 1.9%	52 1.4%	4.47	4.45
[Q2] 11	この授業でシラバスに示されている到達目標が達成できましたか。	2325 61.0%	1086 28.5%	294 7.7%	50 1.3%	32 0.8%	4.48	4.46
[Q2] 12	この授業は充実していて、満足できるものでしたか。	2265 59.4%	1063 27.9%	305 8.0%	82 2.2%	72 1.9%	4.42	4.41

授業評価に関する学科長見解

初等教育科 学科長 藤田光子

[平成 30 年度前期]

平成 30 年度前期の学科全体傾向は受講態度・授業内容いずれの設問に対しても、4.44～4.65 と高得点を示しており、学生の授業に対する満足度は高いと言える。また[Q1-1]以外の項目においては、すべて平均以上であり、授業内容・態度共に充実していたことがわかる。授業内容については[Q2-7]について一定数がそうは思わないと答えていることから、授業内で学生が意見を述べやすい環境作りが必要である。授業態度においては、全項目ともに安定して高い評価である。自由記述による授業内容の改善は各教員が学生からの意見として受け止め改善する必要がある。

また継続課題である時間外学習については、15 分未満が依然として多く 15 分～1 時間の取り組みが多い状況である。しかし 1 時間～2 時間、2 時間以上についても取り組んでいる学生も多い。時間外学習についてはさらに授業内での課題確認やシラバスに記すなど具体的課題提供の工夫が必要となる。

[平成 30 年度後期]

平成 30 年度後期の学科全体傾向は受講態度・授業内容いずれの設問に対しても 4.40～4.57 と高得点を示しており、学生の授業満足度は高いと言える。具体的には[Q1-5]の授業外学習については 15 分未満が最も多いが、30 分～1 時間、15～30 分も増加しており、シラバスへの時間外学習の記載などによる授業改善等の取り組みにより授業時間外学習において良い変化が見られる。さらに 1 時間から 2 時間学習している学生が大幅に増加していることは、ある程度の時間外学習の定着が見られる。また後期科目においても同様に[Q2-7]については科目内において更なる工夫と改善が必要であると感じている。

全般として自身の受講態度については全体平均をすべての項目で超えているものの、授業内容に求める評価が厳しい傾向がうかがえる。自由記述における授業改善も引き続き検討が必要であり、さらなる授業内容の検討も必要である。特に複数担当の科目について十分な連携が取れていない面については早急な改善が必要である。

平成30年度「私の授業改善プラン」集約一覧

【初等教育科 前期】

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
仲嶺まり子	音楽表現	毎時、授業開始時にシラバスの進捗状況を確認した上で、本時の内容と次回の授業とのつながりについて説明した。また、自主学習課題返却時に記述上の留意点等について説明し、次の課題学習に活かせるようにした。	全体的には、平均を上回る評価結果であることから、概ね良好な結果と受け止められる。[Q1] 5の項目については、一週間の平均の平均勉強時間が平均を下回っていたことから、課題の再検討が必要と受け止められる。	手遊びや歌が楽しくかったという記述が多く、楽しく授業に参加できている様子が見られた。また、歌の内容や作者について調べたという記述も散見され、調べ学習の効果を確認することができた。	前回の授業改善アンケートにおいて、学生との双方向性ややりとりについて欠けている点があると感じている。また、可能な限り座席を回すために、個人指導（グループ指導）の時間確保の改善を図る考えがある。	学生との双方向的やりとりやグループでの話し合いの時間の確保が課題とされている。各授業において、質問や座席を回すための個人指導（グループ指導）の時間確保の改善を図る考えがある。
工藤 豊文	法学（日本国憲法） 教職概論 教育原理 算数	① 授業の最後に質問を受ける時間を作る。 ② わかりやすいパワーポイントの内容、文字の大きさを工夫する。	評価項目の授業内容（Q2）については良好である。	「概ね良好。今まで通りで良い」と感じた。「もう少しゆとりが欲しい」という記述が複数あり、説明し、学生が整理する時間をとっているつもりであるが、さらに、もう少し学生の様子を観察するようにしたい。「携帯をあたっている学生も全然いないので、よかったです」という記述が驚いた。	復習テストの質問コーナー設置やパワーポイントの工夫によるものと考えられる。	これまでと同様 ① 復習テストを実施する。その中に、「質問コーナー」を設ける。 ② わかりやすいパワーポイントの内容、文字の大きさを工夫する。特に、背景や文字の大きさを改善する。
八幡 雅彦	英語A（会話を含む） 国際文化I 進路指導II	・「英語A」に関しては、授業以外の学習時間の確保のために宿題を増やした。パワーポイント、プロジェクターを使用してわかりやすい授業を心がけた。覚え指名するようにした。 ・「進路指導II」に関しては、作文を従来よりも多く書かせ、日本語検定試験問題も取り入れた。 ・「国際文化I」に関しては、国際交流会で学生たちの役割を多くした。	自分としては「授業は充実して満足できるものだったか」という問いの平均点が40を超えているように努力している。1年Bクラス「英語A」「国際文化I」「進路指導II」ではその目標を達成できたが、1年Aクラス「英語A」では目標に届かなかった。上記授業改善を行ったある一定の成果は現れたと考える。すべての教科が40を超えるまでにあと一息なので、もう少しの努力が必要と考える。	「パワーポイント、プロジェクター」を使い分けていくことに「いろいろな人を当ててくれる」という記述からは授業改善に取り組んだ成果が表れたと感じている。「明るくて和やかな雰囲気」「いろいろな言葉を学べた」というのは従来もあつた記述で今後とも心がけていきたいと思う。それに対して改善すべき点として「同じ語が何度も出てくる」というのが今回もあり、重要性を感じている。また「進行が早すぎる」「ゆるすぎる」という正反対の意見があり、今後、学生のレベルを見極め中間レベルに合わせる工夫をしなければならぬ。「エコーコンがきかかないので教室を変えて欲しい」という記述があり、これは大学側に改善を要望します。	昨年度後期に比べて評価平均点が上がっているのは授業改善に取り組んだ一定の成果の表れだと考える。「パワーポイント、プロジェクター」を使い分けていくことに「いろいろな人を当ててくれる」という自由記述からも授業改善に取り組んだ成果が表れたと感じている。しかし1A「英語A」の平均評価点が40に達しないのは、将来小学校教育員を目指している学生が多くとだけ見るのが厳しいためかと感じる。「国際文化I」は、昨年度に比べて評価平均点が下がっているのは受講人数が増えたためだと考える。「進路指導II」に関しては面談の回数が少なかったのが点数を下げた原因だと判断する。	・「パワーポイント、プロジェクター」を使い分けていくことに「いろいろな人を当ててくれる」という意見に基づき今後ともコミュニケーションの工夫、学生とのコミュニケーションの取組を心がける。 ・「進行が早すぎる」「ゆるすぎる」という正反対の意見からは、学生のレベルを見極め中間レベルに合わせた授業を行う。 ・「進路指導II」に関しては、面談の機会を増やす。 ・「国際文化I」に関しては、受講人数が多いことも想定しながらどのようになれば魅力的な授業になるか試行錯誤する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
後藤 善友	情報処理基礎A 理科指導法 教科特講(算数I) 教科特講(理科)	事前・事後学習の必要性をこれまで以上に徹底することとした。事前学習を伴わずに授業に参加することが可能になると、事前学習を不要なものとして認識される恐れがあるため、毎回の事前学習の有無を確認しながら授業を運営することとした。また前回不評だったテキストについては変更して授業を実施した。	授業時間外学習は前回に比べてやや増加した。特に、学習時間が1～2時間(13名、32%)が最も多かった。学習成果としては、今回の授業改善の成果と考えられる。課題等を抑やしたため、今回の授業内容について平均より高かった。課題等へ取り組むことで理解度や達成感が高まったのではないかと考えられるが、他の授業との比較をしていないので、授業時間外学習時間の全体平均あたりにあわせて考察したい。ラーニングコモンズで学習する学生が予想より多かった。	自由記述欄は概ね良好なコメントであった。少数であるが、進度が遅れる学生がいることが確認される。授業時間中での個別対応では限界があるため、学修支援室等の支援体制の整備を要望していきたい。	事前・事後学習の徹底を実施したことが要因だと思われる。ところが理解不足のところや明確になり、その都度の対策やフォローが可能になったのでは無いかと思われ。	引き続き事前・事後学習の徹底を心がけたい。また、学生相互の支援(教え合い)が大きくなることを期待している。授業の工夫を行っていききたい。
師子鹿元美	英語A(会話を含む) 外国語活動指導特論	授業の進め方、課題、配布物などをシラバラスに沿って詳しく計画し、実践した。	専攻科の科目については、全般的に評価は平均を下回っていた。初等教育科の科目は、どちらにも、概ね評価は良かった。特に、[Q2]の7.8、11は評価が高かった。しかし、[Q1]が5分未満と答えた学生が、3割から4割いた。専攻科の科目については、全般的に評価は平均を下回っていた。初等教育科の科目は、どちらにも概ね評価は良かった。特に、[Q2]の7.8、11は評価が高かった。しかし、[Q1]5分未満と答えた学生が、3割から4割いた。	専攻科の科目では、「模擬授業をもっとしたか」「採用試験に役立つ内容が多か」「初等教育科の科目では、「絵本の読み聞かせやペーパーなどの発表が楽しかった」「絵本を使った授業が多か」「板書が少しか」「進みが速い」などの記述が見られた。	専攻科の科目については、開講前から授業の内容や進め方などを検討して準備をした。しかし、内容を盛り込みすぎて、学生にとっては消化しきれない感じが残ったのではないかと感じる。初等教育科の科目は、テキストと絵本を使って授業をした。読み聞かせの時間やワークのためにペーパーやグルーピングワークを取り入れて、学生参加型になっていったのが良かったのではないだろうか。少し、自分のレッスンプランにこだわった時間が多かった。	教えるべき内容と学生が求めている物をもっと一度見直して、学生の組み立てをして実践したい。また、絵本をどのように取り入れるか、テキストとどのように関連させるかを考えて授業をすすめたい。
藤田 光子	指導法特論(音楽) 音楽表現	テキスト内容を音楽表現と音楽の科目の順次性において取り入れる内容工夫した。また学生が多面的に学習するようワークシート内容の見直しを行い、評価についても検討し直した。	おおむね良好であった。1-5について改善がみられる。2時間以上の学生が多いクラスもあるもの、クラスによってばらつきがある。	概ね良好であった。みな楽しく授業に取り組めていたことがわかった。コミュニケーションワークは良好である。指導法特論において模擬授業回数の要望が見受けられたのは良い兆候であると捉えた。	対話的な学びについては充実している。また多くの実践的経験をもちたいと思っている学生が45分の授業計画を経験させる目的で模擬授業を計画実施したが、全員の経験に至らなかったことがその要因であると考え	来年度の授業では歌唱など実践試験などでフィードバックが難しい内容についての扱いについて再検討する。模擬授業等の実践的経験を有する内容については全員ができるような時間配分と内容を検討する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
伊藤 昭博	造形表現 図画工作	昨年度の授業評価アンケートの改善点として、学生からの記述で進み方が早い等の意見があったことから、制作にかかる時間配分の説明や、遅い学生に対しての個別の指導を行うなどの工夫を行った。	おおむね、各授業の評価は、平均値を上回る47～48であったが、1クラスでの評価が平均値の45前後の値であった。これまでも、なかつた値であり、原因について探していきたい。	自由記述の良いと思う点では、分かったりやすく教えてくれた、いろいろなことを学べてよかった、グループ学習ができていてよかった、実際に実習とかで活かせることができた、作った、作る楽しさが分かった等の意見があった。 また、改善点として、時々、声を聴きとれない、後ろの席まで指示が通らない、説明が早すぎる、うるさい人がいる等の意見があった。	良いと思う点の作る楽しさが分かったとの意見が多かったの際、制作方法は限定せず、個人の発想で自由に表現することをアドバイスしていることが要因かと思われ。また、個人で制作した作品を互いに見せ合い、お話し作りなどのグループ活動に慣れたこととも要因になっているかと思われる。 改善点の意見が聞か取れないという意見があったが、学生たちが授業に取り組む姿勢として、説明の時など教室内の学びの環境を作ることへの徹底できてきたことと要因があるかと思われる。	今回の自由記述の改善点の意見が踏まえ、説明の時など教室内の学びの環境を作ることへの指導を徹底して行うと同時に、学生自身が主体的に興味をもつて授業に臨めるような工夫改善を行っているしていきたいと考えている。 また、制作に関わる進度の個人差についても、段階に応じてチェックポイントを設け、学生全員が授業内容に対して充実感をもってもらえたいように取り組んでいきたい。
相浦 雅子	乳児保育Ⅰ 保育内容Ⅳ 進路指導Ⅱ 保育原理	最初の授業時に、授業の目的、どのような方針でやるかとその理由、試験についてなどの説明をした。	・1年生に比べ2年生の評価がかなり低い。最も低いのは、Q2-7である。 ・どの科目でも共通で低いのは、Q2-5である。 ・1年生の科目のQ1-1～4は、ほとんど平均を上回っている。	・今までに比べコメントの量が多くなっている。 ・1クラスの中で相反する意見が書かれていた。 ・例年よりも記述の量が増えている。 ・テキストの進め方について、「遅い」との批判があった。	・テキストにある内容をよりわかりやすく、実話を重ねようとして、実話を重ねた方がわかりやすかった」という意見と「自分の話ばかりして訳が分からぬ」との意見があった。同じクラスの中で相反する意見が出るのは、授業に臨む姿勢の違いやモチベーションの違いによるのではないかと考える。 ・最近の学生は、「意味を考える」ことより「重要なことを覚える」ことに力を感じる傾向にあるように思える。 ・授業の開始時に、聞きながらノートを取ることを重要性を伝え、自分でノートを作るように言っているが、「聴きながら書く」とはどういうことか分からない。	・かつては、事例を話せば、授業に興味を持っていない学生の耳を持ってきていたが、近年の学生は違っていた傾向にあるように思われる。そのため、今後は事例から授業への関心を持たせる部分でなく、テキストにある興味関心を引き出すようにすることと考える。 ・自分でノートを作るようにだけでなく、最後に提出させノートを評価の対象とするようにする。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
河野 伸弘	法学(日本国憲法) 教職概論 化学	法学(日本国憲法) …日本国憲法の成立過程や基本原理解を理 解して、選挙に関心をもち投票 行動に繋げるように実践した。 教職概論…保育士・幼稚園教 諭・小学校教諭等教師に必要な 専門科目の学習に繋げた。 化学(食物栄養科) …栄養士 の専門科目を学ぶために、化学 の基礎を体系的に理解するよう に実践した。	授業内容の評価項目は概ね良 好であった。(法学…4.51 教 職概論…4.90 化学…4.46 全 体平均…4.48) ただし、[Q1]5の勉強時間 の評価は悪い。(法学…2.71 教 職概論…2.50 化学…2.12 全 体平均…2.34)	丁寧な板書と具体例を用いた 分かりやすい説明は高評価で あった。 また、小テスト実施(法学・ 教職概論…2回、化学…10回) も理解向上のために高評価で あった。	プリントによる授業で学生の 理解度を上げることには主眼を置 いた。 ただ、小テスト対策やレ ポート課題作成以外は復習時間 が少ない。	授業プリントの内容とレポー ト課題の改良を図り、新聞記事 等時事ネタの資料を配布して理 解を深める。 学生が意見を述べられるよう な場面を設定する。 化学学生については高校時代に苦 手な学生が多いので、基礎的な 分野と量的概念の理解を徹底す る。 毎回1時間程度の復習課題で 学習時間を確保するように指示 する。
高橋 俊二	道徳教育指導法 特別活動指導法 教育課程特論 社会科指導法 生活科指導法 教職概論	全ての授業において、振り返り プリントを配付して、授業の ポイントを確認するようにし た。	[Q2]12「この授業は充実 して満足できるものでしたか」 の問いに対して、すべての授業 において、平均を上回っていた。 学生の受講態度がやや低い。 特に[Q1]5の「この授業 の予習・復習や課題・宿題のた めに、1週間あたり平均何時間 勉強しましたか」が低い数値と なっている。	「振り返りプリントがあるの で、わかりやすいか」「振り 返りプリントがあるのか」「大事 な点をおさえることができた」 等多数の自由記述があった。「毎 回わかりやすい資料を配付して くれるが、もっとグループワー クを増やしてほしい」との記述 もあった。	一回目の授業の時に、シラバ スで授業の到達目標及びテーマ や授業概要をしっかりと説明した 点と振り返りプリントの効果で 授業満足度が高かったと考 える。課題・宿題については、特 に2A、専攻科初等教育専攻の 学生には、全く出さなかった。 教員採用試験に全力で取り組ん でほしいためであり、数値が低 くなるのは、仕方がないと考 えている。	教科は違うが、同じ学生の場 合、後期の授業の最初に、改善 してほしい点をすべて読み上 げ、改善できる点は改善してい くことを知らせる。(後期実際 に実施済み) また、引き続き、 振り返りプリントを活用してい く。グループワークや課題・宿 題の提示も3回に1回程度行っ ていく。
飯田 法子	相談援助 障害児保育 I 教育相談 学習と発達	①規制的な教材を用いた講義 ②障害児保育では小テストの実 施 ③自宅学習用のプリントを配布 する	①について：教材は良かったと の評価を得ており、以前よりも 全体的な数値はアップしてい た。 ②について：「小テストをして くれた」という記述があったよう に、テストは不評ではなく逆に 評価がなされていた。また、そ のため以前に比べると自宅学 習時間が長くなってきているなど 効果も上がっていた。 ③について：自宅学習用のプリ ントも以前に比べると学習時間 が増えることに直結していたと 考えられるが、学生の中には足 りなくなくなった用紙のコピーは お金がかかると嫌だったとの反 応もあった。	演習ではなく講義の形態の授 業であつても「わかりやすい」 という評価が始まっていた。一 部、授業の時間割や、教室移動 などの不満を書いた。また一部、授業 中の環境の問題について記載する 学生もいた。また一部、授業 中に私語を注意されたことや、 発表を求めた際に不満を抱いた と学生の記述もあり、このよう な反応は初めてであり驚いた。	上記の「今回の改善点」にお いて、今回取り組んだことが全 体的なものにながっていると思 われた。 上記自由記述に関する不満に ついては、人前で何かを注意さ れることに敏感な学生が増えて きているのだからと想像し、そ のような繊細な学生が存在する ことに配慮が必要であると改め て思った。	上記①②③については、後期 も実施するようにはしたい。また、 私語を注意されたことへの不満 については、出席番号順に座ら せて集中できる環境を整えるよう の改善に努めたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
落合 弘	教育方法論 教育概論	① ICT 危機を積極的に活用すること ② アクティブラーニングの手法を織り交ぜること ③ 学習プロセスにアウトプット活動を多く織り込むこと	① 評価は予想通り。 ② ICT の使用は効果があった。 ③ 受講態度はやや積極性に欠ける	① おおむね好評評価であった。 ② 「学生は思っていたよりパソコンが使えない」や「作品をつくる時間が不足していた」などの表記があった。 もう少し、丁寧にパソコン操作ができればよように指導の工夫をする。	① ICT 機器の活用、アウトプットの場面を増やすことは一定の効果を得ている。 ② 学生は機器の操作能力に大きなばらつきがあり、高校での指導の差が表れていると考える。	① ICT 機器の活用は一層進められる。 ② アクティブラーニングをやっても、学生がアクティブラーニングだと意識しなかつたり、その用語自体を知らなかつたり「いまからアクティブラーニングやります」と宣言して実施する。 ③ 毎時間のワークシートを作成し、提出させる取り組みを継続する。
雫石 弘文	特別支援教育総論 教育方法論 教育原論	全担当者の講義内容を参考にするとともに、シラバスに準じながらも学生の教育的ニーズを把握した上で、毎時間の内容や方法を工夫した。特に、グループワークや具体的な事例を通して主体的に取り組めるようにした。	おおむね好評評価ではあったが、教育原論等の歴史を追って理解していく科目については、若干名ではあるが内容が難しすぎたようであった。講義内容に一人ひとりの能力や適性に応じてさらに工夫すべきである。	自分が経験してきた学校現場の具体的エピソードを講義内容に合わせて語ることは、学生の理解に効果的であったと追われる。プレゼンテーション発表表に順位をつけたことに対して1名ではあるが不満の声もあった。検討課題である。	ークラスの中の学生の能力・適性や考え、学習意欲の幅が広いと感じる。特に、授業態度や出席率、レポート提出等の状況がよくない学生の評価が低いのではないかと思われる。また、私自身の授業準備もさらに徹底する必要があると感じた。	授業に消極的な参加の学生に対する声かけや課題シートのコメントを工夫して意欲付けをするなどとともに、グループワークや発表のさせ方を改善し授業に必然的に引き込むようにしていきたい。また、講義方法についてパワーポイントによる講義を中心にしてきたが、資料提示、板書等を適宜盛り込むとともに、調べ学習や学生の発言機会を多くするなどの学生自ら能動的に動く方法を加味していく。
足立 圭司	介護過程総論 介護総合演習 I 相談援助	演習シートを用意し、学生に意見を問わないがままとめていく方式（グループワーク）を積極的に採用した（相談援助2クラス）。 専攻科福祉専攻でも少人数クラスの特性を生かしひとり一人の意見を集約し、教員からのコメントをもとに介護におけるアセスメントと福祉サービス提供者の課題の明確化を行っていた。	相談援助は2クラスで同じワークシートを用いてグループワークを行ったがJ1 N 60 B（2年Bクラス）とJ1 N 60 C（2年Cクラス）とでは評価が大きく異なった。2年Bクラスでは「Q2」1から「Q2」12までの設問の内全体平均を上回った項目数は7であったのに対し、Cクラスでは1つのみ（「Q2」7（学生が質問したり、意見が述べられるように配慮がなされていたか。）の1つのみであった。同じような授業方法を用いてもそれぞれのクラスの特徴によって評価が異なる」と考えられる。	学生は自分の出した意見についての評価を教員へ求めてい人が出した意見がきちんと1枚のプリントにされてきたためと見やも楽しかった「頑張ったらちゃんと覚えてくれる」等、教員の肯定的な評価が学習意欲を高めることが確認できた。 また2年Bクラスより評価の低かった2年Cクラスにおいても「ただ話を聞くだけでなく、実際に事例を元に考えてみる時間やグループワークがあり相談援助について大変学びになった」という声もありグループワークによる授業が一定評価された。	それぞれのクラスの特性による授業評価のばらつきがあること。 グループワークは学生に対して授業に対する関心を高め授業理解を深め、授業満足度を上げるが、学習意欲面でその気がない学生には個別の働きかけ（私語の注意・スマホゲームの禁止の声掛け等）をこまめに行う必要がある。	グループワーク形式の授業の積極的採用（教材ワークシートの工夫）。 教室巡回を頻繁に行い、学生へ授業への集中を高める工夫をおこなう。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
伊藤佳代子	コミュニケーション 技術Ⅰ 介護過程演習Ⅱ 社会福祉 社会的養護 社会的理解Ⅰ 相談援助	授業のはじめに前回の授業の振り返りと今回の授業目的を示すよう心掛けた。 教科書に沿った小テストを実施し、知識の定着を図った。	合併授業を行っていたが、授業では、授業に取り組み姿勢や意欲が平均より低い結果であった。 少数人数の受講者で実施する授業では、学生側の学習意欲が高い結果であった。 同じ科目の授業でも、クラスによって受講態度や学習意欲に差が生じていた。	改善を心掛けていたが、授業の目的が明確に伝わっていない学生がいた。 演習授業は、高評価がある一方で、教科書に沿った授業を求める意見もある。 DVDなどの視覚教材は好評であった。	3クラス合併授業では、学生個別の理解度を把握できていなかった。 受講者が少数人数のクラスでは、教員とのやり取りが活発に行われ、学生が参加が促進されている。 国家試験合格を目指すクラスでは、学生の学習意欲が高く、授業にも積極的に参加している。 学生の特長として、思考力を求めるものや基礎知識の定着を図る授業に取り組み困難性がある。	知識の定着を目指す授業では、教科書に沿った確認のため小テストを取り入れた。また、課題を出すだけでなく理解していない箇所を授業内で解説する。学生間の基礎学力の差に配慮し、要点をまとめたレジュメを適宜準備して活用する。 受講者の多い授業ではこれまで以上に細やかな説明と学生参加を促進する取り組みを行う。
相馬 尚美	介護の基本Ⅰ 乳児保育Ⅰ	学生が講義内容を理解しやすいように、講義と関連する演習の入れ方など授業内容の組み方を工夫した。	演習を入れたことが学生の理解や興味関心を高めることにつながっている一方、予習復習に取り組み時間が少ないように感じる。	講義内容に関することに続けて演習を入れたことは、学生の理解を深めることにつながっていると思う。また1クラスの人数が多いため、講義と演習のバランスをとることが難しい。	実践的、体験的な内容については達成感が持てるようである。	後期の演習科目については、前期と同様に講義と演習の組み方を工夫する。また、知識の定着のために課題内容について検討する。
菅 裕子	子どもの食と栄養Ⅰ 家庭科指導法 進路指導Ⅱ (家庭) 指導法特論 (家庭)	家庭科指導法については、受講者数が多かったため、グループでの模擬授業を試みた。 子どもの食と栄養については、実際の食品や食品映像を見せることを通じて知識や体験のない学生への配慮をした。 実物や手引きをもとにグループ活動させるとともにグループ発表の場を設けた。グループ発表の場での質問を受け説明をした。	おおむね、良好である。しかし、家庭科指導法は、すべての項目に1の評価をした学生がいる。	授業内容についての自由記述は良好である。しかし、前述の1をつけた学生であらうが、授業の内容を自分の解釈でしていると書く記述もあった。	これだけ、科目間にばらつきがあるアンケートについては、学生の教員への好みで記述している学生が多いためであろう。また、回答率を上げる工夫も必要であると考えられる。	来年度は、退職していても、大卒にはいないため、記入できません。
豊浦 章治	国語 (書写を含む) 教育課程論	実物や手引きをもとにグループ活動させるとともにグループ発表の場を設けた。グループ発表の場での質問を受け説明をした。	評価項目のQ2-5の評価が低い。	自由記述欄では学習した内容を現場で具体的に説明した後の授業に具体的なことが好評であった。ただ、詳しい説明を板書で求める意見があった。	授業内容を関連付けて板書しながら説明したが、中心内容と補足内容との区別が分かるよう板書する必要がある。	グループで操作・討議させて発表させた内容を関連付けて板書するが、中心内容を強調して理解できるようにする
尾濱 邦子	教科特講 (国語Ⅰ) 国語科指導法 道徳教育原論 指導法特論 (国語)	今期の授業を行うにあたって、授業時間外の学習時間の確保とすることを念頭に置いて、授業を実施した。 国語の授業が多かったのですが、教材研究、国語科指導法の作成、模擬授業、研究協議会、授業改善の視点でのレポート一連の流れで、15回の授業を実施していった。	学生からは、「課題」が多いという指摘があった。専攻科に入っているのなら、課題をこなすのは、当然のことだと思っは、小学校教員は、実践力が大事で、「授業で勝負」です。その力をつけさせるために、厳しく、指導してききました。	出席については、必ず、出席を取っているが、15回の授業で、6回も遅刻をしてくる学生がいて、注意をしたが、「確実に出席を取ってほしい。」書かれていたが、遅刻は、「出席」かと言いたいです。怠ける学生ほど、文句が多いです。もっと謙虚に学んでほしい。	学生 (専攻科1年) やる気なことで、1週間に3日、1限の授業で、1週間も休んでしまった。雰囲気、暗く、やる気のなさを感じていました。それでも、課題は、提出が遅れても、出してました。	来年度は、退職していても、大卒にはいません。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
谷川 友美	子どもの保健ⅠA 子どもの保健Ⅱ 保育内容Ⅰ 乳児保育Ⅰ	シラバスで示されている授業概要・到達目標を十分に説明した。 私語を慎むように注意した。また私語のない環境設定(授業場所の変更)を行った。 出席状況の把握のためにマメッドという学生証に記載した学籍番号読み取り機械を活用したレポート課題を出すなど授業時間外学習時間の確保ができたように努めた	Q2-1は、シラバスの説明を十分に行ったためか、以前よりも改善されていた。 Q1-5は、演習科目で多くの課題レポートを課した。それに対して、講義科目では課題レポート提出を設定しなかった。その結果、演習科目では、レポート課題が多いと回答する学生が多くなり、自宅での学習時間が2時間以上とすると自宅での学習時間が15分未満である学生が半数いた	声が小さい時や早口であることの指摘があった。体験談や図表や絵によって視覚を活用したような記述が多かった。 Mame-piによる出席管理を「だるい」と回答し改善を求めた声は1名あった。	シラバスの説明を十分に行うよう心がけ実施したことが、Q2-1の項目の点数に反映したと考える。 時間通りに授業が始まらなかったことにもあったため、Q1-1が平均を下回る結果になったと考える。 演習科目では、授業外の時間に課題などを課すように努めた。講義科目ではレポート課題を課さなかった。その結果講義科目ではQ1-5が平均を下回る結果になったと考える。	これからもシラバスの説明には十分時間を取り、学生の満足度につながるようにする。 時間通りに始められるよう始業時間前に教室で待つよう心がける。 講義科目において、時間外学習ができるように課題をもっと課すようにする。 早口や小さな声の指摘から声も配慮する。 Mame-piは、一人の学生の意見のみであるため、今期(後期)も試験的に行っていき今後ネガティブな意見が増えるようであれば口頭で出席を取る方法へ改善していく。 図表や絵などを示すなど、視覚教材を取り入れるとわかりやすさにつながるため、DVD等の活用など工夫して示していくようにする。
山本 裕一	国語(書写を含む) 基礎演習 国語科指導法	時間の余裕がないというの担当科目共通の課題であり、振り返りの時間を長くしたり、教科内容を一部削除し、構成をやりなおして、余裕を持たせようにした。	時間の確保のところで思ったほど改善されなかった。評価は同じ教科でも大きく評価が異なっていて、分析が難しいが、話し方と時間の確保の2項目が共通して低い。	プリントが多い、スライドが早い、わかりずらいという声やプリント、シートがわかりやすい、スライドを待たなくていい、説明が丁寧、親切という声がある。授業が長い、時間が余剰が残り、という傾向がつかみづら減ったもの、やはり、複数存在する。	プリント、スライドの分量が多く、学生が消化不良に陥っているのではないかと思われる。また、必要だと思いつく内容が多盛り込みでいるが、学生の志向や能力に合わせたい点を絞り、主体的に取り組みを促すべく多く入れているように思う。	詳しく説明したくなる気持ちを抑え、アクティブラーニングを授業に組み込んでいく。評価の高い教科の方法を他の強化にも使用していく。
吉村 壮明	図画工作科指導法 造形表現	授業自体の評価は概ね良好。今後も引き継ぎ、継続できるような質にした。演習科目という特質を伴う活動が多く、授業時の制作課題を終える時間にバラバラになる点は個別に課題についてのヒアリング実施。後には授業時間外の学習にどうつなげていくかが課題。	全般的に好評価であり、数値的にも40後半半台であった。ただし復習の時間が少ないと思われるので、今後、改善していきたい。	自由記述は概ね好評価だった(良いと思う点45コメント)。改善点に対しては、設備面(1コメント)、演習系ゆえの活動時の会話(1コメント)があった。改善点は4コメント。	PPTや事前準備、全体のシラバスの流れ、養成系学科を意識した授業内容からだったと考える。ただ、発問や言葉が難しい間というコメント(専攻科2コメント)は、こちらの要求と学生側の要求のマッチングの課題として、今後、検討していきたい。	結果の要因でも記述した通り、マッチングの課題としては、より丁寧な言葉の解説をしたいと思う。 配布物に関しては、さらに用紙の解説を加えた内容にしている。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
中山 正剛	保健体育A（実技を含む） 情報処理基礎A 進路指導Ⅱ 体育科指導法 教科特講（体育）	情報処理基礎の授業については、昨年度は教材の不備があり、教材の変更を希望する学生の声があったため、教材をより良いものに変更した。また、体育系の授業については、これまでよりもアクティブラー二ニングの時間を多く取り入れた。	常に意識しているQ2の8～12については、今回も良い評価をもらえたようだ（ほとんど4.7以上）。今後もこのような評価をもらえるよう授業研究を続けていきたい。情報処理の教材については、「前回のようなくなく」になっていた。	説明の詳しさや対応の丁寧さにおいて高評価を受けているようだ。また、伝える際の声の大きさも聞き取りやすいという評価だった。	授業については、教師の一方的な授業形態をなるべく少なくし、アクティブラー二ニングの形態をとったことと、良い評価をもらえる要因であると予想される。また、情報処理の教材については、より良い教材を使用したため、このような結果になったのだと思われる。さらに、自由記述の結果において、このような評価を受けているのは、説明、根気強い対応、聞き取りやすい声量）を意識して授業を行っていることが要因だと思われる。	今回の結果に満足することなく、これまで以上に、「教える」自分で学ぶことができるような時間（アブローチ）を増やしていきたいと思う。
向井 隆久	教育評価・統計法 心理学 学習と発達	保育・教育の現場で働くことを目指す学生が興味を持ち、わかりやすい内容になるよう、資料作成に努力した。また授業内容について問い作成する機会を設け、学生が相互コメントしたり、授業内でも問いに回答するようにした。	授業内容については、全体的に高評価であった。授業外学習も狙っていた程度、取り組めたこと高評価に繋がったかもしれないが、今回のような内容を今後を継続できるようにしたい。	ワーケーションや資料、DVD使用などが評価されており、説明もわかりやすささかかったようだ。今回のような情報量や説明の仕方が学生にとっては適度であり、学生が学生に沿うことができたと感じた。	学生のレベルや興味を意識しながら、保育・教育の現場で働くことを目指す学生が興味をもたなり、将来役立つような内容を意識したり、学生の理解レベルを意図したこと（良かったかたかもしれない）。選択科目でも、積極的に受講したいという学生が多かったことと、相まって良い結果に繋がった。	今回の授業内容は、学生からも高評価であったため、できるだけ継続することを指す。この授業は受講生が多いという点もあり、学生同士の話し合いやグループ学習の時間を多くとることができなかつた。受講生が話し合いの時間を設けることで、提供する情報量とトレードオフの関係に陥りがちであるが、上手く調整しながら、学習機会を提供できるようにしたい。
渡邊 輝美	教育課程論 保育内容Ⅱ 保育内容Ⅳ 保育内容総論	今期が大学での初めての授業であったため、わかりやすい内容と伝え方に心がけた。理論と実践を結びつけるために、保育現場の実際の事例を示しながら説明した。日々の実践力につながる演習やエピソードのグループワークを取り入れた。	評価結果は、概ね良好だが、2-5の評価が低い。	「実際に役に立つ内容だった。」という記述が多かった。板書の内容はわかりやすいが、「字が小さい」「消すタイミングが早い」という記述も多かった。「その日何を学ぶかが分らなかった。」が1件あった。	大学での初めての授業だったので、どのくらい字の大きさを理解できているかを良く見ることができた。授業のポイントを示すことができていたように感じた。授業の後半であったが、前期の後半であった。	後期は、字を大きくして板書を行う。学生が写し終えているかどうか状態を把握してから消す。次の板書をするように心がける。 ・授業開始時にその日の授業の内容やポイントを板書・パワーポイント・紙媒体などで示し、何を学ぶのが明確に理解できるようにする。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
矢津田由利	保育内容総論 保育内容Ⅳ	なるべく、授業内容がポイントで理解できるようにワークシートを増やしたり、実践につながるような読み聞かせや保育環境の絵などのやり方工夫をしたりした。	昨年より、平均的によくなった項目もあるが、同じ授業でもクラスによって受け止め方が違うと感じた。	実践的な授業内容、ワークシートなどで、授業がわかりやすかった。意見や質問を多く受けてよかった。改善点など好評であった。意見は、真摯に受け止めた。	昨年より、グループワークの機会を増やしたり、ワークシートでワークシートに記入し、その後グループワークをするように引き続きしていきたい。なるべく、いろいろな学生に発言の機会をつくってきたい。	シラバスにそって、授業内容のポイントを理解し、ワークシートで予習・復習をできるように、さらに工夫していきたい。また、グループワークで他の学生の考え方や学びの刺激を受けると好評なので、まずは自分でワークシートに記入し、その後グループワークをするように引き続きしていきたい。なるべく、いろいろな学生に発言の機会をつくってきたい。
安部えつ子	音楽科指導法 器楽Ⅰ、Ⅲ 進路指導Ⅱ	音楽科指導法では、いつも器楽の活動が好評なため、半期に合わせた今回の実施であったがしっかりとその内容が含まれるように指導した。	音楽科指導法では、時間外学習の時間が少ない。 進路指導では、小テストの時間外学習も意外とやっていたと思っただ。	音楽科指導法では、わかりやすかった。記述が多かった。鑑賞の分野も好評であった。進路指導では、面談の時間を設けたので相談しやすかった。	音楽科指導法については、おむね良好な評価であった。思う。楽器に触れることや、堅苦しくない鑑賞曲が良かった。進路指導では、就職に向けての相談がじっくりでき、学生も安心したようである。	進路指導は授業ではなく、前回の面談を踏まえてしっかりと就職支援をしていきたいと思う。 器楽では、練習室の使用状況を知らせて練習したい旨の自由記述があったので、教室使用の掲示をし、学生がいつでも利用しやすい環境を整えた。
高田 知和	保育内容総論 保育内容Ⅱ	学生の学びを定着させるために、小レポート等を活用した。フィードバックや、前回やったことの復習を通して、授業間のつながり意識しながら授業を行なった。また話を聞かせるような内容や話し方などを、学生の受講態度を見ながら、柔軟に対応するよう努力した。	評価項目は概ね良好だったが、Q2-Q12「この授業は充実している満足できるものでしたか」では、「1. そう思わない」と回答している学生がいたため、少数意見ではあるが、さらなる改善が必要だと感じた。	映像を踏まえた授業について肯定的な意見が多かった。授業中への私語への対応や、毎回同じ内容に感じたなどの意見が見られた。これらの意見を中心に今後の授業につなげていきたい。	改善点に基づき、意識したことがこの結果につながった。この分析は難しいが、なるべく学生が主体的に授業に参加できるように、授業の雰囲気づくりを努力したことが結果の要因ではないかと考える。静かにこちらの話を聞く時間、集中が切れそうなタイミングで、グループ等で学生同士が話し合う時間を設けたことも、このような結果につながったのではないかと考える。	自分が思ったよりも良い評価だったが、アンケート結果にもあったように、充実してないと感じた学生、毎回同じ内容に聞こえないという学生がいるので、このような意見こそ真摯に受け止め、前期の反省を生かして、十分に授業の準備を行い、後期につなげていきたい。また、このような意見を書いてくれる学生は2年生が多いことから、実習等の経験を通して保育についての見識が深まってきた学生に向けて、さらに充実させ、専門性の高い授業ができるよう努力したい。
石川千穂子	保育内容Ⅰ 保育内容Ⅱ 保育内容総論 家庭支援論 保育原理	板書の仕方について改善いたします。誤字脱字にきおつけ板書するときは、はつきりと大きくわかりやすく書くことに努めます。 配布物の使用について、最初に配っていたほうが良いと思っていたが、使用時に配布するよう改善いたしました。	評価項目は、おおむね良好だが、2-5の評価が悪い。	2-5については、板書の字の大きさ及び板書の書き方が原因に思っている。実践的な内容、グループ討議については、充実感が持てるためであると考えている。	授業の冒頭に配布物等に関する取扱い方を述べてから配布する。また実践的な授業となるよう3回に1回は、演習やグループ学習を取り入れた授業展開を行うこととする。	

【初等教育科 後期】

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
仲嶺まり子	表現と鑑賞 保育内容V	予習・復習のための課題シートを改善した。主に、予習段階で授業に活かせる調べ学習の充実を図った。	Q1は全項目概ね良好である。特にQ1-5については、平均以上の勉強時間が確保されている。一部の科目で、Q2-3、Q2-5の評価が平均を下回っている。	グループ学習や発表は好意的に評価されている。また、予習・復習課題の効果について「授業外の課題で知識が身についた」という記述が見られる反面、レポート課題に対する経験差の不安や、授業時間超過に関する不満の記述が見られる。	課題シートの改善を図り調べ学習の取組に繋がったことが、Q1-5の結果の要因と考えられる。Q2-3、Q2-5については、発表前の各々の役割や担当楽器についての指導が不足したことが要因と考えられる。自由記述については、課題シートが効果的であったこと、模擬指導のコメントや課題指導返却時及び配布時の説明が良かったこと、レポートの執筆説明時に知識のみの内容を求めていることについての説明が不足したこと、が要因と考えられる。	課題シートについては、予習・復習を適切に行うことができるよう継続して改善に取り組み、自学習の充実を図る。課題や執筆説明については、分かりやすく簡潔に行うことで時間短縮の改善を図る。園児を対象とした発表活動において一人一人の指導時間の確保を図る。
工藤 豊文	数学 教育原理	① 前時に課題を与え、その解答を次時に学生が説明するようにした。 ② わかりやすいパワーポイントの内容、文字の大きさなどの工夫をした。	Q1の5を除いてどの項目も概ね良好と考える。	こちらに意図するところを学生が理解できていると感じた。	これまでの授業アンケートを踏まえ自分なりに工夫してきたことがうまくいったようだ。	これまでと同様に ① 復習アスタの実施、その中に「質問コーナー」を入れる。質問があれば、次回の授業で学生全員に回答する。 ② わかりやすいパワーポイントの内容、文字の大きさなどの工夫を心がける。いろいろな学生が存在し、うまくいったことがそのまま次回に活かされることが限らない。常に学生の状況を観察しながら工夫を重ねていく。
八幡 雅彦	英語B(会話を含む)	前期の授業改善プランで「パワーポイント、プロジェクターを使って分かりやすかった、いろいろな人を当ててくれる」という意見に基づき今後ともコンピュータ利用の工夫、学生のコミュニケーションの努力を行う」「学生のレベルを見極め中間レベルに合わせた授業を行う」との目標を掲げた。後期の授業ではこのことを実践した。	今回アンケートの対象となったのは初等教育科1年生「英語の2科目であった。Dクラスはほぼすべての質問において平均値を上回ったが、Eクラスはすべて質問において平均値を下回った。授業形態は、英会話を交えて質疑応答によるもので、Dクラスの方が食いつきのいい学生が多かったためと思われる。もうひとつは、Dクラスは金曜日の5限で、若干授業を早く終わらせたことにも起因するのかもしれない。	自由記述は、「わかりやすい説明してくれる」「先生が優しい」「プリントが配られるからいい」等、好意的なものが多かった。改善点として挙げられたのが、「少し早い」「もうちょっと分りやすく説明してほしい」「テスト範囲が広すぎて、授業のギリギリまで範囲だったのが、テストに向けて勉強する気があまったり、ぼぼ反対の意見であり、毎年、学生のレベルの上下の格差が広がっていることを感じる。もっと視覚的なもの、聴覚的なものを取り入れてどんなレベルの学生たちにも対応できる授業を行うことにも必要なのだろうか。	Dクラスはほとんどすべての質問において平均値を上回った。Eクラスは平均値の質問において平均値を下回ったとはいえず、すべて4ポイント以上の評価で、平均値を0.2ポイント前後下回った程度だった。やはり「パワーポイント、プロジェクターを使って分かりやすかった、いろいろな人を当ててくれる」という意見に基づき今後ともコンピュータ利用の工夫、学生とのコミュニケーションのいっそうの努力を行う」「学生のレベルを見極め中間レベルに合わせた授業を行う」という目標を実践したことに由来のものと考える。	今後ともコンピュータを用いて視覚、聴覚に訴える授業を行う。 ・自由記述の中に「いろいろな人を当てたり元気で明るい授業でした」という好評がある一方で、「わからぬ人をはたしていい」という指摘があった。これまでに以上で学生たちの名前を早く覚え、もっと多くの学生を指名する授業を行う。 ・学生のレベルの格差がますます広がっているのが授業を行う上での難点であるが、保育・教育現場で役立つ英語の歌や絵本やゲームを今までの以上に取り入れることで数多くの学生たちの関心を集める。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
後藤 善友	教科特講（算数Ⅱ） 物理 物理 情報処理基礎B	事前・事後学習の徹底を心がけるとともに、学生相互の支援（教え合い）が大きな効果を生んでいる傾向を感じているため、教室内外で学生同士の間が活発化するよう授業の工夫を行った。	授業時間外の学習時間は、どの科目も平均時間を超えていると、一定の成果を得られていると感じた。しかし、1週間の授業時間外学習が15分未満の学生がまだ存在していることから、課題内容等は引き続き検討したい。	概ね良好な評価が得られているようである。情報処理の授業では数名が速く進むことや難しいことは改名を求めている。授業の進め方にも配慮をしようとしたが、授業時間内では限られた授業時間内では困難であるため、SAの導入や授業時間外学習をサポートする学習支援センターなど学習環境整備を要望していききたい。 グループ活動は前学期より批判的なコメントは減少し、好意的なコメントが増加した。1年前期でグループでのアクティブラーニング活動を体験した学生は後期でのグループ活動にはそれほど苦手意識を持たなくなっているのではないかと感じた。	授業時間内に実施する活動・課題だけでなく、授業時間外学習の内容を具体的に指示することを中心とした結果だと思われる。	引き続き事前・事後学習の徹底を心がけたい。また、学生相互の支援（教え合い）が大きな効果を生んでいる傾向を感じているため、教室内外で学生同士の間が活発化するよう授業の工夫や課題の工夫を行っていきたい。
師子鹿元美	英語B（会話を含む）	ペアー活動、グループ活動などを取り入れて、学生がお互いに学びあえるような環境作りをした。	概ね好評であった。Q2-3、Q2-10がほかの比べ低かった。また、Q1-5がどのクラスでもかなり低い。	概ね好評であった。ペアー活動や補助プリントは好評であった。ただ、授業の進め方が速いという記述がいくつもあり、同時に、授業が丁寧でわかりやすかったという記述もいくつかあった。	学生の到達度がばらばらな中で、少しゆっくりに進んでいると思っても速く感じる学生がいる。昨年の学生を参考に、この位のペースで良いと判断してもうまじいかな。家庭学習の時間が少なく、予習をせずに授業に出してしまうと、ついていけないと感じることもあった。	学生の実態把握、また到達度をきちんと把握して授業プランを作成したい。家庭学習を促す課題の設定などを工夫したい。
藤田 光子	音楽 器楽Ⅱ	「器楽Ⅱ」においてはセルフモニタリングカードを毎回提出する改善を行った。 音楽については、moodleでの課題提出を実施した。	安定した評価であった。Q2についてはすべての項目で平均を上回った。 「音楽」については時間外学習について工夫が必要である。	「器楽」については担当教員による対応の差を感じている学生がいる。学修を積み重ねている様子がわかる。 「音楽」については全般的に良い評価で、充実している様子がうかがえた。	基本的共有は複数の教員担当であるが、会議等を行い連携が十分に取れているが、個人によって感じ方の違い等からおこる。 「音楽」についてはじっくりと時間をかけ学生がわかりづらいつら部分の復習を毎回実施したことが要因であると思われる。	「器楽」では複数の教員による授業は、これまでに3回の評価会議において連携と情報共有を深め、さらに学生からの意見も共有する必要がある。評価基準を明確に学生に提示していく。 「音楽」では時間外学習を明確にし、学生自身で振り返りができるようなフィードバックを工夫する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
伊藤 昭博	進路指導 I 図画工作 保育内容 V	前期の授業評価アンケートの改善点として、授業中にうるさくない人がいたので制作に集中できている。授業の進み方が早い等の意見があったことから、授業の最後に演習内容の振り返りをレポートで提出してもらった。	おおむね、各授業の評価は、平均値を上回る46～48であったが、1クラスでの評価が平均値の45前後の値であった。これまでは、なかつた値であり、原因について探っていた。	自由記述の良いと思う点では、グループ学習ができていてよかった、実際に実習とかで活かせることができた、いろいろ分かった、楽しく教える、作る楽しさを学べてよかった、作る楽しさが分かった等の意見があった。 また、改善点として、カリキュラムが詰め込みすぎである、時々、声が聴きとれない、説明の席まで指示が通らない、説明が早すぎる、うるさい人がいる等の意見があった。	良いと思う点で、作る楽しさが分かったとの意見が多かったのは、個人で制作した作品を互いに見せ合い、お話しなどがグループ活動につなげたことが要因かと思われる。また、制作方法は限定せず、個人の発想で自由に表現することも要因になっているかと思われる。 改善点の意見でカリキュラムが詰め込みすぎである、声が聞き取れないという意見があったが、学生たちが授業に取り組む姿勢として、説明の時など教室内の学びの環境を作ることに指導が徹底できていないことが要因であるかと思われる。	今回の自由記述の改善点の意見を踏まえ、説明の時などへの指導を徹底して行うと同時に、学生自らが主体的に興味をもつて授業に臨めるよう工夫を考えている。 また、制作に関わる進度の個人差についても、段階に応じてチェックポイントを設け、学生全員が授業内容に対して充実感をもってもらえたい。
相浦 雅子	保育内容 III 家庭支援論 乳児保育 II	合併授業の出席を確実に取る ・授業終了時に質問の時間を創る	・3クラス合併の方がクラス授業よりポイントがかなり低い。 ・同一科目の場合、クラスによって評価にかなり違いがある。 ・2年生の方が1年生より自己評価が低い。	・良かったところと改善点と、両方に意見が書かれた。 ・今までになかった良いところは、「声が大きい」「声が終わるまでとおる」など、声に関することが書かれていた。 ・テキストの内容を分かりやすく説明するために実際の事例などを話していたのだが、それについて「とても良かった」「よくなりました」と「自分の話ばかり」「自分の意見だけ」という相反する意見があった。 ・スマホを触っている人を注意してほしい」との意見があった。 ・「静かに授業が聞けて良かった」という意見もあった。 ・「まとめてきてちゃんと板書をしてほしい」との意見があった。	・書きで提出していた時より、スマホで入力するようになってからコメントが増えた。最近の学生にとっては、書くより打つ方が馴染んでいるのだと思う。 ・授業としての環境維持に関して、教員に期待しているようになく、テキストを学ぶことについて理解できていない学生がいたことは、その意味伝達の方法が適切ではなかったのではないかと、ただ写すための板書を求めている学生が多いので、基礎演習でやったノートの取り方を再度確認する必要がある。	

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
河野 伸弘	法学（日本国憲法） 生徒指導論 進路指導論	法学（日本国憲法）…日本国憲法の成立過程や基本原則を理解し、選挙に関心をもち投票行動に繋げるように実践した。生徒指導論…生徒指導の意義や原理、実際の生徒指導の進め方を理解して、他の教職員や関係機関との組織的な連携に必要な知識・技能を身につけるように実践した。進路指導論…進路指導の意義や原理、キャリア教育の意義や必要性を理解して、キャリア教育の組織的な推進体制や関係機関との連携に必要な知識・技能を身につけるように実践した。	授業内容の評価項目は概ね良好であった。（法学…1C 4.54 1D 4.54 生徒指導論…4.91 進路指導論…4.89 全体平均…4.48） ただし、「Q11」5の勉強時間の評価は悪い。（法学…1C 2.29 1D 1.98 生徒指導論…2.44 進路指導論…2.33 全体平均…2.43）	丁寧な版書と具体例を用いた分かりやすい説明は高評価であった。また、2回の小テスト実施も理解度向上のために高評価であった。	プリントによる授業で学生の理解度を上げることには主眼を置いた。ただし、小テスト対策やレポート課題作成以外は復習時間が少ない。	授業プリントの内容とレポータ課題の改良を図り、新聞記事等時事ネタの資料を配布して学生の理解を深める。学生が意見を述べられるような場面を設定する。学校現場での生徒指導主任や進路指導主任の経験を活かし、具体的な事例を紹介して学生の理解を深める。毎回1時間程度の復習課題で学習時間を確保するように指示する。
高橋 俊二	教育職の総合研究（社会） 指導法特論 教育原理 教育課程論	教育原理等は毎時間、自作資料を作成し、配布して授業を行い、授業の終わりにまとめの課題に取り組ませた。教科の指導法については、指導案作成や模擬授業を多く実施した。	教育職の総合研究や教科の指導法等の評価は、概ね良好であった。教育原理等の評価は十分ではなかった。	「プリントを配付して、まとめの時間があつたのでわかりやすかつた」という記述があつた。反面「ねむい」「退屈」という記述もあつた。講義形式の授業の進め方にやや問題があつた。教科の指導法では「指導案作成や模擬授業はためになった」という記述が多かつた。学生が考え、活動できるとあつたからだと考える。	指導案を作成して、模擬授業を行う授業は、学生が考え、活動的であつたため、評価は高かつたが、教育原理等はどうやっても講義形式が多いため、やや一方的で、退屈な授業となつたため、評価が低かつた。	これからも、指導案作成、模擬授業は多くしていく。講義形式になりがちな授業は、ワークシートを取り入れたり、また、ゲームを取り入れたりして、ルールで討議ができるように工夫していく。
飯田 法子	学校カウンセリング 特論 教育相談論 原草家庭福祉 障害児保育Ⅱ 保育相談支援 保育実習指導ⅠB、Ⅲ	多クララス合併の講義ではモチベーションを保つことが難しくなるため、視覚的な支援を講義であつてもなるべくアクリルボードを取り入れ、学生同士が学び合える機会を多く持つよう心がけた。自己学習やテストで自分が何に取り組みれば良いかが明確になるよう、段階的に説明した。グループ発表時の自己肯定感を持つよう意識した。	受講態度に関しては、教科や学年やクラスによってバラつきがあつた。授業内容については、講義の科目であつても概ね平均前後の4点以上の評価となつていれる。学生らの意見が述べらうかかの評価には低いものもあつた。特に「講義」形式の場合には学生の意見が述べられていない場面があつたことを確認した。	同じ教科であつても、とてもわかりやすい、という反応もあれば、眠たいといったようなモチベーションに乏しい反応もみられた。視覚的な学びを取り入れられていることは高評価であると感ずた。また、グループ発表はどの学生も大きな学びが多かつた。しかし、真面目に出席をしている人となつた際の真面目な側の学生からの不満も記載されていた。	今回工夫した点については、概ね評価を得られたと思われ。しかし、モチベーションが低く視覚情報で不足している学生と、学びの意欲のある学生との間にある大きな差については、今後さらにもっと工夫していく可能性があるため、それぞれに対応するために工夫についてさらに検討していく必要がある。そのためには、その教科を学ぶことが面白いと思えるような情報収集および提供と、アクティブラーニングの手法の再検討が必要と考へていく。	「モチベーションが低く視覚情報が不足している学生と、学びの意欲のある学生との間にある大きな差」については、今後さらにもっと工夫していく可能性があるため、それぞれに対応するために工夫についてさらに検討していく必要がある。そのためには、その教科を学ぶことが面白いと思えるような情報収集および提供と、アクティブラーニングの手法の再検討が必要と考へていく。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
落合 弘	教育原理 社会学 法学（日本国憲法）	② ICT 機器の活用は一層進められる。 ② アクティブラーニングをやっている。学生がアクティブラーニングだと意識しなかつたり、その用語自体を知らなかつたりする。ことかからアクティブラーニングやります」と宣言して実施する。 ③ 毎時間のワークシートを作成し、提出させる取り組みを継続する。	① 評価は予想通り。 ② ICT の使用は効果があった。 ③ 家庭学習時間が少ないことは残念だが、学生は他の専門科目に自学の時間が必要であり、やむなしと考える。	① おおむね好評評価であった。 ② 動画やパワーポイントの資料は好評である。	② ICT 機器の活用、動画の活用は一定の効果を得ている。 ③ 小テストを入れることで学習がしやすくなってきているので、継続する。	① ICT 機器の活用は一層進められる。特に e-Learning システムを活用する。 ② 毎時間のワークシートを作成し、提出させる取り組みを継続する。
零石 弘文	生徒指導特論 介護等体験実習指導特論 特別活動指導特論 教育相談 介護体験指導	学生が主體的に取り組めるように、今期は「模擬授業」「集団討論」「グループワーク」のいずれかを各授業の中で実施した。さらに、知識的な内容の説明の際には、具体的な事例を提示して考えさせながら進めることで、より実践力につながるように努めた。	おおむね好評評価ではあったが、専攻科1年の評価の中で1名のみ評価を低くつけている学生がいた。学生は特定できらるのに授業を受けられるようにも考える必要がある。	学生のことを考えた授業の進め方は評価されたが、欠席や遅刻者への指導の厳しさが必要という意見があった。成績には反映しているが直接指導の徹底も必要かと思われる。次年度から一人一人の学生の状況に応じて対応する。	自分が経験してきた学校現場の具体的エピソードを講義内容に含ませて取り入れることは、学生の理解に効果的であったと思われ。ただし、学生の遅刻等の規律に関する指導の仕方については検討の余地がある。	授業参加に消極的な学生に対する助言や課題シートのコメントをさらに工夫して意欲付けを図るとともに、グループワークや模擬授業、集団討論等を引き続き実施して、授業に必然的に引き込むようにしていく。また、講義方法については、パワーポイントによる講義に加え、資料検討、板書等を適宜盛り込むとともに、調べ学習や学生の質問・発表の機会を多くするなどの学生自ら能動的に思考する方法を増加する。
足立 圭司	生活支援技術 II 介護総合演習 II 児童家庭福祉 社会的養護内容 保育相談支援	「児童家庭福祉」について 1. 静粛な授業環境にするため、席を出席番号順としたこと。 2. 授業毎に確認テストを配布したこと。 3. 教科書の説明だけでなく、現代の保育をめぐるとピックについて映像資料をもちいたこと。	1. 理解度に応じた授業の進め方について、確認テストの実施だけで理解度をみていたがその他の方法でのチェックの必要があったと考える。 2. 授業への動機付けが十分でない学生が多くなくてきていると感じる。	1. 課題（確認問題）が授業理解に役立ったと言ったこと、2. 改善の自由記述として、1 クラス合併授業」という意見やスクリーナーが見えづらかったと言ったことがある。	1. 児童家庭福祉：復習をさせるために確認テストを出したが、アンケートにおいて自宅での学習時間がとれていなかった事、2. 自由記述はよく見られたこと、3. 席を出席番号順としたこと、4. 静粛な授業環境が確保されたこと、5. 居眠りする学生が多く見られたこと、6. 120名以上の合併授業のためそれぞれの学生へ注意することができなかつたこと、7. 動画映像を用いた授業は概ね好評であったが、「眠くなる」等の自由記述が見られ、授業への動機づけに困難を感じた。	1. 学生に授業外での予復習時間をとらせるため、課題の内容の精選を図ること。確認テストは提出させ学生にきちんと指導していく。（そのために合併授業は避ける必要がある） 2. 大教室で声がききづらいうり易く発声し合併授業の不利を補いたい。 3. 授業理解の度合いを見るためにこれまでの確認テストに加えて学生への問いかけを増やしていきたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
伊藤佳代子	社会の理解Ⅱ 総合生活演習Ⅲ、Ⅳ 社会的養護内容	学生の理解度を意識しながら、学習到達度に応じて、新たな知識と関連させた復習を取り入れた。 知識の定着を目的としたグループワークを取り入れ、協働作業を通じて主体的な学びが行えるよう授業内容を工夫した。	少人数のクラスは、学生の授業に対する満足度が高くなっている。 国家試験を控えている学生は、学習意欲が高く、自宅での学習時間が前期より増えている。同じ授業を行ってもクラスによって評価が異なっている。	グループワークによる参加型の授業が好評であったが、作業の目的を理解できない学生がいた。 社会福祉の教授内容とともに、教員としての対応や資質について評価された	グループワークでは、学生の主体性を尊重していたが、個別の理解度を把握できていなかった。 授業を通して学生生活全般の支援について専門とする社会福祉実践をもとに説明したこと評価が高かったと考える。 国家試験を控えたクラスでは、個人だけでなくクラス全体の雰囲気も知識の獲得に積極的であった。	グループワークなどの参加型の授業では、作業開始時だけでなく合同にも進度に応じた説明を行っていく。 好評であったグループワークについて、目的や作業方法等を具体的に示した資料を作成し、学生の主体的な学びを支えながら、基本的な知識の定着を確認する時間をとっていく。 教授科目の内容が個人を尊重した社会福祉であるため、授業内容と教員個人の言動について自己一致を心掛け、きめ細やかな授業を工夫する。
相馬 尚美	生活支援技術Ⅲ 認知症の理解 こことからだのしくみ 医療的ケア 子どもの保健Ⅱ	講義の初めに前回の講義内容について振り返りの時間を設けた。また演習科目について、課題レポートを求めたり、同内容に関する講義を事前に行う事で、それぞれの演習の目的や手順を確認した。	演習内容に関する講義を行った後に実際の演習を取り入れた事で、より関心をもって演習に取り組みやすかった。また、学生が体験を通して学びを深めることができたことと捉えた。	1回の演習ではわかりにくい内容について、事前学習を求めたり演習に臨んだことでより実践的な演習を行う事ができ、意欲的な取り組みにつながった。また、一人一人が必ず演習に参加するように計画したことと、意欲的に演習に取り組めたようだった。	卒業後に現場で求められると思われる項目を取り上げて演習を組み立てた。また、各人が必ず演習に参加できるように1回の演習に参加する学生数を制限して、一人一人の取り組みや体験を重視したことがこのように結果につながったと考える。	演習の内容に関して、学生が疑問や意欲をもつて取り組めるよう課題内容を検討する。引きつづき学生が演習に参加できるように新たな体制を考える。
豊浦 章治	教育課程論 言語表現	グループで操作・討議させて、発表させた。中心内容を強調して板書することにした。	評価項目のQ2-6の評価が低い。 学生の授業評価は、概ねよかった。	自由記述欄では具体例と保育や指導場面と関連付けて説明したこととが好評であった。 書くことが多かったという自由記述があったが、書かないと、理解が、できない内容であるため、学生の理解力を高めるために、毎回の授業で書かせた。	授業内容を構造的に板書して説明したが、強調する内容が分かった。 授業評価は、全般的によかったが、それは、学生との人間関係や、コミュニケーションによるものだと思う。	今年度、退職で、来年度は、授業はありません。
尾濱 邦子	道徳教育の研究 特別活動論 国語（書写を含む） 生活 教育課程論 修了論文	学生の能力合わせて、寄り添い、楽しく、授業をした。書くことで、理解力を高めることに、重点を置いた。				

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
谷川 友美	乳児保育Ⅱ 子どもの保健ⅠB、Ⅱ 進路指導Ⅰ	シラバスの説明は十分時間を取り、学生の満足度につながるよう努める。 時間通り始められるように始業時間前に教室で待つよう心がける。 講義科目において、時間外学習ができるように課題をもっと課すようにする。 早口や小さな声の指摘から声のトーンや大きさ及びスピードにも配慮する。 まめつびは一人の学生の意見から後期を試験的に行っていく図表や絵などを示すとわかりやす教材を取り入れるとわかりやすさにつながるため、引き続きDVD等も活用して授業を展開する。	Q2-1は評価が前期に比較するとよくなった。 授業時間外学習に費やす時間が少ないと評価する科目もあった。	話すスピードや口調など聞きやすいという評価項目の点数が前期評価より高くなった。 実践を交えた講義内容に対する評価は高かった。 テスト問題が多いとの指摘があった。 まめつびの評価に関する記述はなかった。	テスト問題の問題数を見直し、適切な時間で解くことができすぎる内容なのかについて再検討する必要がある。 シラバスの説明を十分行ったことが、満足度につながったのではないかと。 「子どもの保健」に関して、時間外学習の課題が少なかつたことが要因と考える。	シラバスの説明は十分時間を取り、学生の満足度につながるよう努める。 講義科目（子どもの保健）において、時間外学習ができるように課題を今以上課す。 まめつびに関する出席管理を引き続き継続していく。
山本 裕一	保育・教職実践演習 保育実習指導ⅠA、Ⅱ 言語表現 文学 教科特講（国語Ⅱ）	授業内容と展開について大幅に検討を加え、改善した。新たな評価方法としてポスターセッションを取り入れた。ミニパーペーパーを利用して学生の声を取り入れた。	複数クラスで展開している授業科目は、クラスによって評価がまちまちであった。複数教員で当たる科目については、話し方や教具の使用が低めであった。双方に共通して授業時間の確保の欄が評価が低かった。	新規科目については分かりにくい、指示があいまいという声があった。複数教員で当たる科目については、連携と時間管理についての指摘が多かった。	新規に始めた科目や試みに不満が多いため、授業研究の時間を十分にとりたい。複数クラスで同時展開は事前に会議、メールで共通理解していたが、不足していたようだ。	会議、メールだけでなく、同一科目を担当する教員とのコミュニケーションを密にとる。 授業ペーパーを落とし、学生の理解を優先する授業構成や方法を検討する。特に時間の管理には注意する。
吉村 壮明	指導法特論（図画工作） 進路指導Ⅰ 修了論文 図画工作 保育内容Ⅴ	以前（前年度および前期）の指摘を意識して、授業を行った。特に前年度の改善点を踏まえて、引き継ぎ、学生のデザインセッション、相互学習としての協働の場を設けた。	概ね良好な評価であったと考える。授業の総合評価とみなせる Q2.12 が 981H 1 が 4.38、JJ180A が 4.83、JJ180B が 4.68、6320A が 4.54、JJ780A が 4.60 という数値であった。全体平均 4.45 から鑑みても数値総合としては良好ではなかったのだろうか。	全ての授業において知識と活動のバランスと教員の授業方法にたいだいた（68 コメント）。改善点である「教室が寒かった」等は使用教室の課題であるが、進路指導のコマとして学外や学内のコメントは今後、全体で検討すべきかもしれない（ただ進路指導という枠しか使用できないのも実情である）。	数値と記述で見える限りにおいては、良好な結果は上記した知識と活動のバランスへの意識、授業方法の要因と考える。	Q2.12 が 981H 1 が 4.38、JJ180A が 4.83、JJ180B が 4.68、6320A が 4.54、JJ780A が 4.60 という数値であった。このライオンを今後もキープするよう努力する。今後の改善点としては、特に制作活動において進捗の違う学生やグループ（早く仕上がる・遅く仕上がる）に対しては、実態に応じて対応していきたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
中山 正剛	保健体育B（実技を含む） 情報処理基礎B 指導法特論（体育） 修了論文 体育	前年度の課題であった「情報処理の教材」については、より分かりやすい教材に替えた。また、前回の課題というわけではないが、より良くするするために、アクティブラーニングや反転授業、PBLなどのアプローチを増やす工夫をした。	Q2（授業内容について）は、すべての授業、すべての項目（12項目）において、平均以上の点数を獲得することができた。この結果を見て、常に継続して授業研究をしていることが、このような結果に繋がっていると感じた。	今回から導入した moodle による授業運営が好評であった。また、常に授業改善を図ろうとする姿勢が学生に伝わっており、その姿勢が学生から評価されているようだ。	授業については、教師の一方的な授業形態をなるべく少なくし、アクティブラーニング、反転授業、PBL の形態を多めにとったことが、良い評価をもたらえた要因であると予想される。また、moodle の利用についても、ICT 利用の機会の確保など、効果的に授業を進めることに繋がったと思われる。さらに、自由記述の結果において、このように評価を受けているのは、学生目線になって、学生のために授業改善しようという姿勢が高評価をもたらしている要因だと考える。	今回の結果に満足することなく、これまで以上に、「教える」自分で学ぶことができようない双方向型の時間（アプローチ）を増やしていこうと思う。また、今回高評価だった授業で用いていることを考えている。
向井 隆久	教育心理学特講 人間関係論 教育の方法と技術 発達心理学 教育方法論 修了論文	保育・教育の現場で働くこと、わかりやすい内容になるよう資料作成に努力した。また授業内容について面白い質問を設け、学生が相互コメントしたり、授業内でも問いに回答するようになった。初等教育科2年次の教育方法論や専攻科の授業では、より学生主体の学習に表の機会を作り、学生同士の教え合いや予習を促すように試みた。	授業内容については、全体的に高評価であった。初等教育科2年次の教育方法論では、半程度以上の学生は、確保できているが、一部の学生は十分に時間が確保できていない。また100名近い授業者数の授業で行う際のフォローが難しくかつた。発達心理学では、同一の授業でも受講生100名の授業と140名の授業で評価に違いがあった。受講者数も考慮した授業の工夫が必要かもしれない。	ワーケーションや資料、DVD 使用などが評価されており、説明もわかりやすい情報量や説明の仕方が学生にとっては適度であった。受講者数が多い場合、授業時間ギリギリまで授業を行うと、次の授業の移動（5限の場合同、電車の時間）を心配する学生がおり、より早めに終了する工夫が必要かもしれない。	学生のレベルや興味を意識しながら、保育・教育の現場で働くことや将来役立ちそうな内容を意識したり、学生の理解レベルを意識したことが良かった。教育方法論では、幼児免許コースと小学校免許コースの学生が半々の合同であったため、学習内容のバランス調整も難しいところもあった。発達心理学では、同一の授業でも受講生100名の授業と140名の授業で評価に違いがあった。140名の授業は5限と行うこともあり、学生全体に力を持続させることが難しくかった。	今回の授業内容は、学生からも高評価であったため、できるだけ継続することを目指す。また来年年度の教育方法論は、諸学校免許コースが分離されて授業を実施するため、より学生のニーズに合わせて学習内容を設定しやすく、そうした内容を目標とする。発達心理学では、特に5限で受講生140名の授業において、より多くの学生と関わるように努めたい。授業時間が長くなりすぎないよう、よりポイントを絞って授業を行うなどの工夫を行うようにしたい。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
渡邊 輝美	言葉と児童文化 言語表現 保育内容Ⅰ、Ⅲ 保育者論	前期に改善が求められていた 板書の字を大きく見やすくする ことについて、毎授業注意内 容に示すこと で学生が見通しをもつて取り組 めるようにした。講義だけにな らなく、グループワークを取り入 れることで、アクティブラー ニングが可能となるよう心がけ た。	評価の得点は概ね良好であり 【Q2】はほとんど全部が平均 点を上回っていた。しかし、1 ～5の授業の予習・復習や課 題・宿題の取り組み時間につ いては低いと思われる。	言語表現や言葉と児童文化の 表などで行った児童文化の制 作や発表などのグループワーク では、実践に生かせる高評価 だった。学生も自分たちの力 で出来たことと自信が湧き、 将来に役に立つと実感したと思 われる。また、保育者論では、 生からこの授業に対する熱が 伝わってきた。大切なことを わたり学びになるのだと感じ た。	学生は、ただ講義を聞くだけ でなく、自分たちで話し合っ たり、制作したり、調べたり アクティブラーニングの取り 組みが結果につながった要因 と考へる。また、自分たちが 認めたことを教員が褒めたり 認めることをうれしく思い、 自信につながっていると思わ れる。	児童文化財の制作や発表だけ でなく、いろいろな科目で学 生が主体的に取り組んでいき けるような課題を考えていま す。また、自分自身がその科 目に対する熱意を持った取り 組んで、学生の意欲的な姿勢 を育てていきたい。視覚的に わかりやすい授業にするた めに、パワーポイントの使 用回数も増やしていきたい。 1～5の授業の予習・復習 や課題・宿題の取り組み時間 が低い状態については、次の 履修内容を知らせ、予習の取 り組みを促すほか課題プリ ント配布による家庭学習につ ながりたい。
矢津田由利	保育内容Ⅲ 教育実習指導 保育者論 保育相談支援	今回は、2クラス合同の授業 「保育者論」では、自由席で なく出前順、毎回前列後列を クラス交代し、授業に集中 できるようにした。また、現 場での実践力を身に付けたり 意見交換の機会を多くし たり工夫をした。	「保育者論」「保育内容Ⅲ」 は、どの項目も、評価がこれ まで一番よく、嬉しく感じ た。「教育実習指導」の評価 は、担当全員にこまめに生か せるようにした。1年生は平 均点よりも高く、2年生は 平均点よりも低い。	「グループワークやワーク シートで分りやすかった」「実 践がたくさんあり、考えるこ とが多かった」「現場で実践 できる内容が多かった」な ど、学生に「考える」「こ ろがでるワークシート」を 多く取り入れたこと、自己紹 介書添削や評価票面談などの 個人指導の時に、他の学生に 出さずとも「指導」になり、 学生自身で考える場が少な いと反省した。	よかった評価については、 ワークシートやグループワー クを多く取り入れ、内容を工 夫した成果が出たと思われ る。「教育実習指導」では、 各学年、5クラス合同の授 業で、共通理解は図れるもの の、自己紹介書添削や評価 票面談などの個人指導の時 に、他の学生に出さずとも 「指導」になり、学生自身 で考える場が少ないと反省 した。	今回の結果に満足するのでは なく、グループワークやワー クシートなどで「主体的に考 えながら学ぶ」ことに重点 をおき、さらに内容や方法を 工夫する。現場での実践力に さらに繋がるように、各教科 科で、指導案作成、教材研究、 省察まで見通した模範保育を 実践したい。また、機器も できるだけ取り入れたい。「 教育実習指導」では、学生 に「考へる」場を多く設定 する。担当者のクラス配置 をしたり、1年生、2年生に 、年間5から6回ずつ、さら に個人指導の充実や学生の相 談に丁寧にこたえたい。全 体での字の見えにくさは、 担当者間の連携で機器を 活用する。

教員名	科目名	今回の改善点	評価結果の受け止め	自由記述の受け止め	結果の要因	授業改善プラン
島田 知和	幼児理解の理論と方法 幼児教育指導特論 進路指導Ⅰ 教育方法論	後期では、1年生は幼稚園観察実習、2年生は全ての実習を終えているので、実習等を通し深められた経験を生かし、より専門性の高い授業ができたよう努力する。	評価が高い科目もあれば、低い科目もあった。2-3,4,5,6は全体的に平均より高いが、2-7,8が科目によっては平均よりも低いものがあった。	自由記述欄では改善してほしい点は記述がなかった。良いと思う点では、事例や映像を使用した点やわかりやすかったという記述が多かった。	2-7,8については、意識していたつもりだったが、授業を受けている学生にとっては十分ではなかったためだと考える。2-3,4,5,6については時間をかけて準備したり、意識して行ったからためだと考える。	評価結果について、今回授業によって差が見られたことから、次年度からはよりクローズドな実情にあった授業ができるように努力する。質問や自分の意見が出しやすい環境を整えたり、学生自身が自分の学びを自覚でき、よりよい工夫をし、充実感や満足感が得られるような授業づくりを行う。そのためにも学生の状況に合わせて、シラバスに基づき、見直しを持ちつつも柔軟に対応できるように心がけた。
石川千穂子	保育相談支援 保育内容Ⅲ 進路指導Ⅰ	前期の改善点板書の仕方について、誤字脱字にきお付け、はつきりとかわりやすい文字、大きさ、板書の仕方、板書するところなどに注意を払い実践を行いました。また、配布物やワークシートを取り入れた授業についても実践を行いました。	自由記述欄に、板書について「板書がとんでも見やすかった」「板書しやすかった」と、高評価であり成果が見られていると思われ。プリントを使った授業についても高評価であった。2-11については1科目は評価が低かったため、到達目標までには至らなかったとされる。	授業内容について丁寧、分かりやすい考えの場面が多く作られていたとの記述は評価が高いと考えて良いと思う。また、グループ学習やワークシートを使っている授業演習なども実践的になっていると考えられる。2-5の評価が少し低い科目については、視聴覚機器を使っているかたためと考えられる。今後の反省点につなげたい。	2-7～2-9・及び自由記述については、学生自身やグループでデイスカスしたことや起因している工夫されたことが起因しているとも考えられる。2-4についてもワークシートやプリントを使っての授業内容の改善点が学生に伝わったと思われる。	科目ごとの目標に到達できたと考えるように、DVD視聴をはじめ視聴覚機器を使った授業内容をとり入れ、より実践に近づけるよう授業内容を改善していきたいと考える。そして、今回高評価であったプリントを使用しているワークシートやグループワーク等、実践的演習学習にも引き続き取り組んでいきたい。

平成 30 年度 授業評価報告書

編 集：別府大学短期大学部 FD 委員会
発行年月日：平成 31 年 3 月 31 日